

UMLモデリングツール

PatternWeaver

- 操作マニュアル[SysML] -



株式会社テクノロジックアート
TECHNOLOGIC ARTS INCORPORATED

1.	はじめに.....	1
2.	パッケージ図	1
2.1.	パッケージ図の追加.....	1
2.2.	パッケージの追加	2
2.3.	ブロックの追加.....	2
2.4.	包含関係の設定.....	3
2.5.	ビューの追加.....	4
2.6.	視点の追加	4
2.7.	パッケージ図の例	6
3.	要件図	6
3.1.	要件図の追加.....	6
3.2.	要件の追加	7
3.3.	要件間の関係性の設定	7
3.4.	要件間の関係性の表示	8
3.5.	要件のテーブル表現.....	10
3.6.	ダイアグラムの例	12
4.	ブロック定義図.....	13
4.1.	ブロック定義図の追加.....	13
4.2.	ブロックの追加.....	13
4.3.	ポートの追加.....	14
4.4.	ポートの型設定.....	15
4.5.	フロー仕様の追加	16
4.6.	制約ブロックの追加.....	17
4.7.	ダイアグラムの例	17
5.	内部ブロック図.....	18
5.1.	内部ブロック図の追加.....	18
5.2.	ダイアグラムの親要素設定.....	20
5.3.	プロパティの追加	23
5.4.	プロパティの型設定.....	23
5.5.	型を指定したプロパティの追加	24
5.6.	型を指定したプロパティの表示	25
5.7.	プロパティの構造化.....	26
5.8.	ポートの追加.....	27
5.9.	ポートの型設定.....	29
5.10.	ポート間の接続.....	29

5.11.	アイテムフローの型設定	31
5.12.	アイテムフローのプロパティ設定.....	31
5.13.	インタフェースの追加	33
5.14.	ダイアグラムの例	35
6.	パラメトリック図.....	36
6.1.	パラメトリック図の追加	36
6.2.	ダイアグラムの親要素設定.....	36
6.3.	制約プロパティの追加	38
6.4.	制約プロパティの型設定	39
6.5.	ポートの追加.....	41
6.6.	プロパティの追加	41
6.7.	ダイアグラムの例	42
7.	割付け(アロケーション).....	42
7.1.	要素間の割付け	42
7.2.	アクティビティ区画の割付け	44
8.	パターンウィーバーver2.4 で追加・変更された機能	48
8.1.	Java プリミティブ型のインポートと設定	48
8.2.	相互作用使用の操作法	49
8.3.	振る舞い呼び出しアクションの操作法	52

1. はじめに

このマニュアルでは、パターンウィーバーの SysML モデリング操作方法を解説します。パターンウィーバーの基本操作・UML モデリングについては、パターンウィーバーの操作マニュアルを参照してください。

パターンウィーバー操作マニュアル

<http://pw.tech-arts.co.jp/download/index.html#manual>

2. パッケージ図

2.1. パッケージ図の追加

モデルにパッケージ図を追加するには、以下のいずれかの操作を行います。

操作：メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「パッケージ図 [SysML]」を選択

操作：プロジェクトビュー上でモデルやパッケージを右クリックしてコンテキストメニューから「カスタムダイアグラムを新規追加」 - 「パッケージ図 [SysML]」を選択

この操作を実行すると、ダイアグラムがプロジェクトビューに追加され、追加したダイアグラムがダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

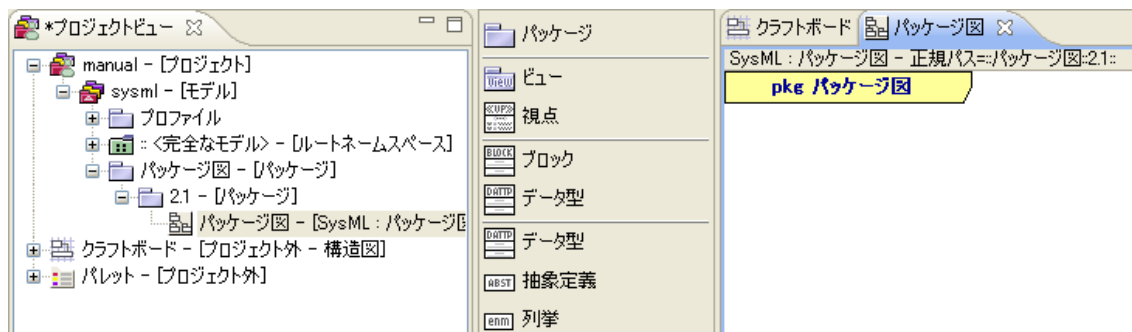


図 2.1

2.2. パッケージの追加

ダイアグラムにパッケージを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにパッケージをドラッグ&ドロップします。

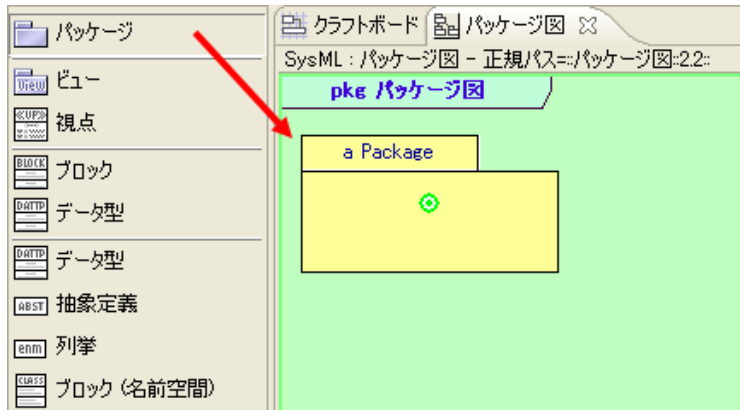


図 2.2

2.3. ブロックの追加

ブロックを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにブロックをドラッグ&ドロップします（ダイアグラムツールバーには、ブロックはデフォルトの表示が異なるものが四種類用意されています）。

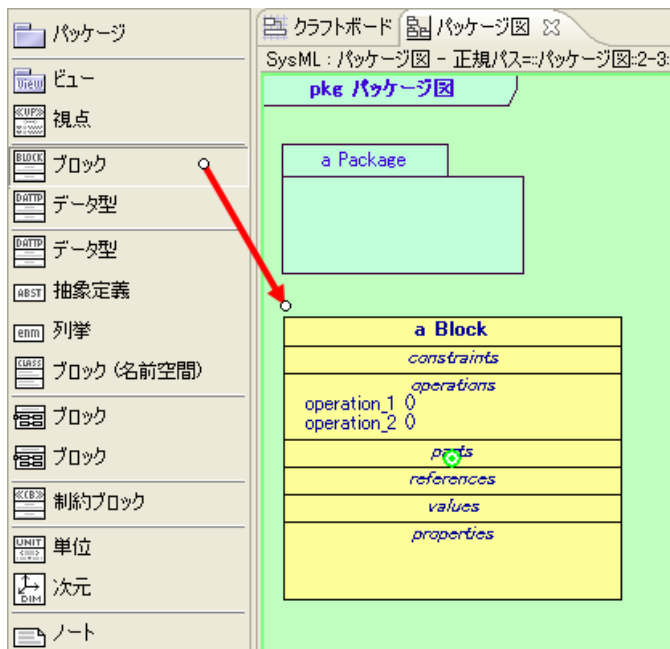


図 2.3

ブロックに関する操作の詳細は 4 章ブロック定義図にて解説します。

2.4. 包含関係の設定

パッケージからパッケージやブロックに対して包含関係を結ぶには、まずパッケージのコネクタから包含関係を結ぶ要素のコネクタにドラッグ&ドロップをします。次に、関係線を右クリックして、コンテキストメニューから[関連の種類] - [パッケージの包含関係]を選択します。

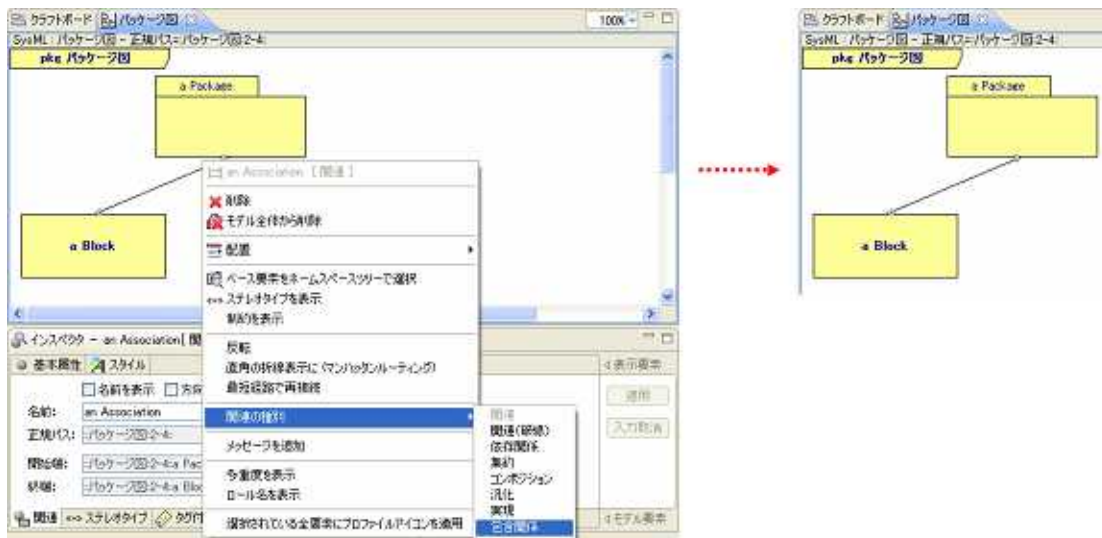


図 2.4

包含関係で結んだ要素はルートネームスペース内では、包含元のパッケージの中に移動します。



図 2.5

なお、パッケージとブロック間をつなぐ際に、ブロックのコネクタからパッケージのコネクタに向かって関係を引いた場合、関係の種類を包含関係に変更することは出来ません。

2.5. ビューの追加

ビューを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにビューをドラッグ&ドロップします。

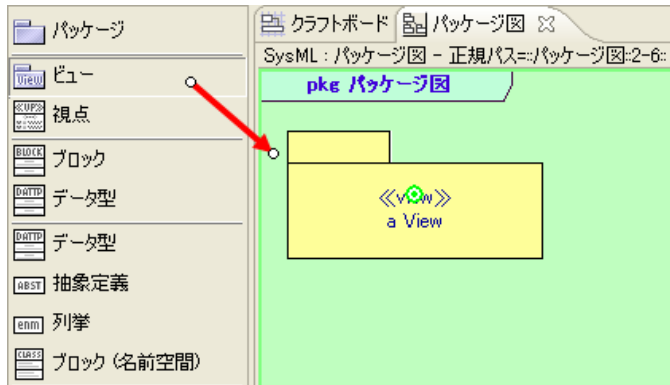


図 2.6

2.6. 視点の追加

ビューに対して視点を設定するには、まずダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに視点をドラッグ&ドロップして、視点を追加します。

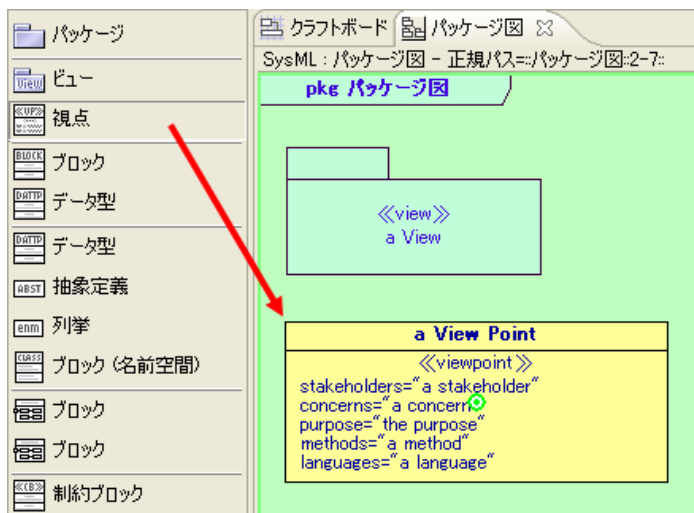


図 2.7

次に、ビューを選択してインスペクタの「選択...」ボタンをクリックして、視点の選択ダイアログを表示します。対象の視点を選択して「選択」ボタンをクリックします。

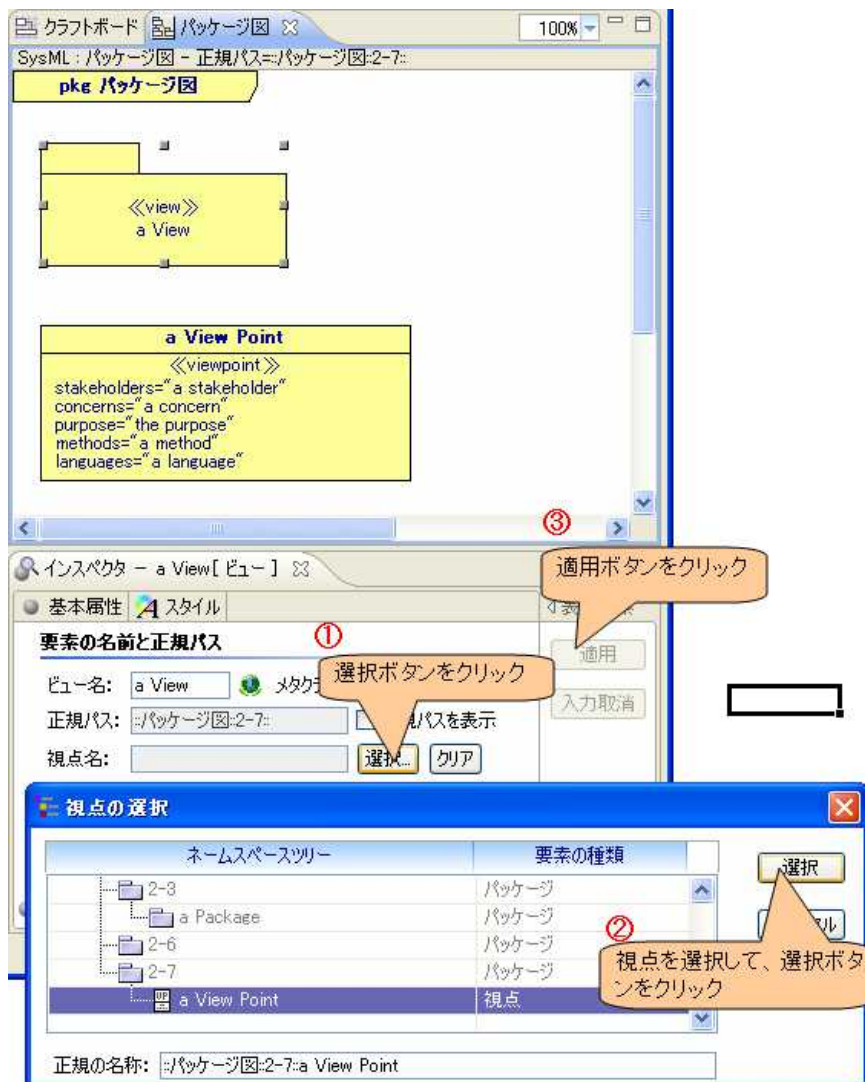


図 2.8

ビューに視点名を表示するには、ビューを右クリックして、コンテキストメニューから「視点を表示する」を選択します。

2.7. パッケージ図の例

以上のような操作から、パッケージ図を作成した例を以下に記載します。

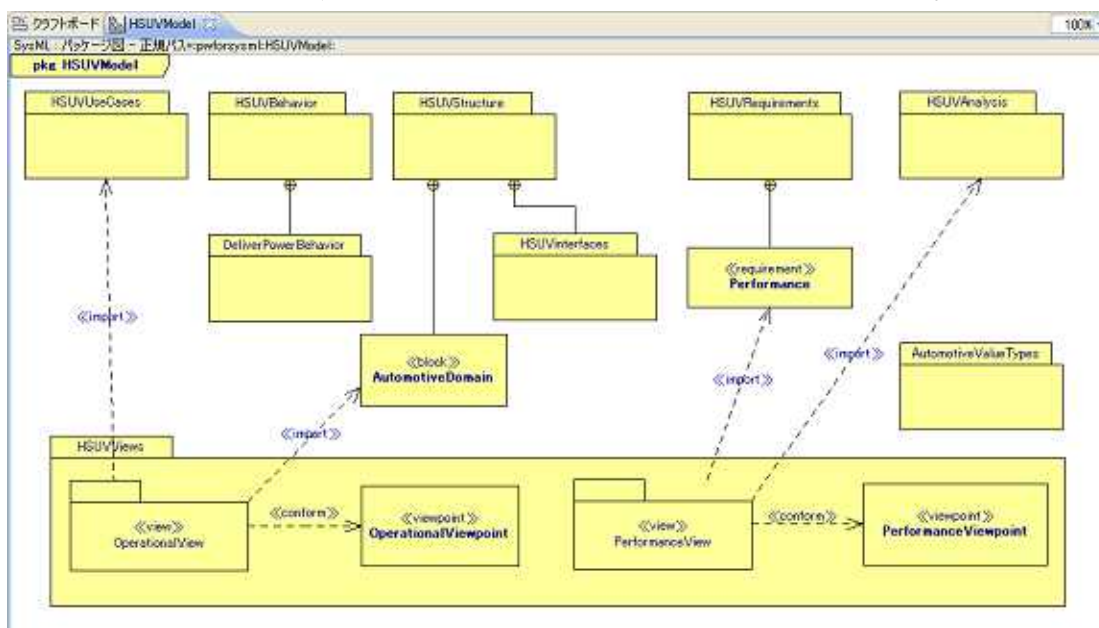


Figure 2.9

3. 要件図

3.1. 要件図の追加

モデルに要件図を追加するには、以下のいずれかの操作を行います。

操作：メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「要件図[SysML]」を選択

操作：プロジェクトビュー上でモデルやパッケージを右クリックしてコンテキストメニューから「カスタムダイアグラムを新規追加」 - 「要件図[SysML]」を選択

この操作を実行すると、ダイアグラムがプロジェクトビューに追加され、追加したダイアグラムがダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

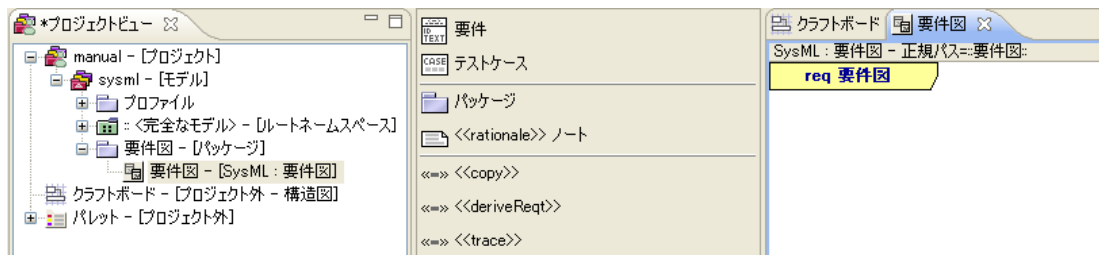


图 3.1

3.2. 要件の追加

要件を追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに要件をドラッグ&ドロップして配置します。配置した要件の Id と text はインスペクタ上で編集します。なお、Id と text を非表示にするには、要件を右クリックして、コンテキストメニューから「ID とテキストを隠す」を選択します。

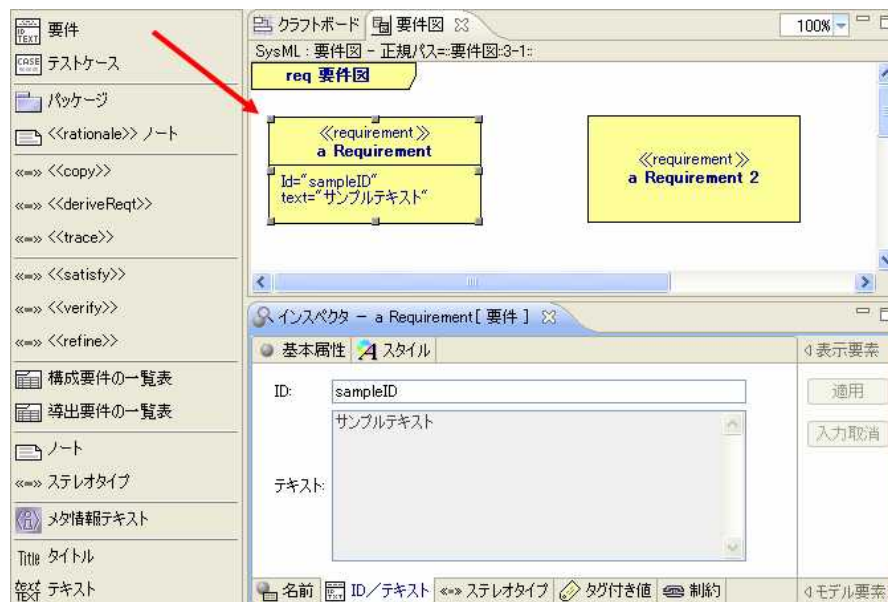


図 3.2

3.3. 要件間の関係性の設定

要件間の関係性を定義するには、まず要件のコネクタ間をドラッグ&ドロップをして接続します。次に、ダイアグラムツールバーから設定したい関係性に該当するステレオタイプを選択して、関係線上にドラッグ&ドロップします。

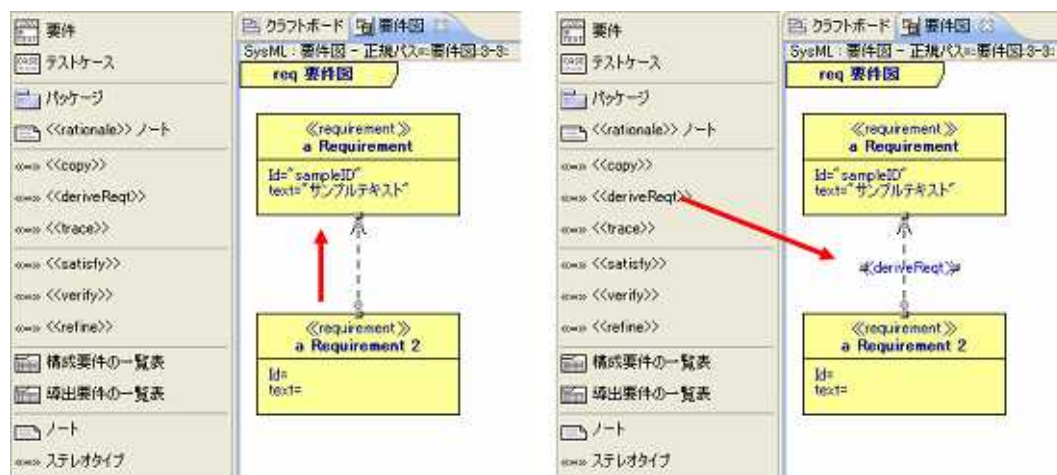


図 3.3

3.4. 要件間の関係性の表示

関係性を定義した要素の一覧をノートに表示するには、まず関係性を定義した要件にノートを接続します。

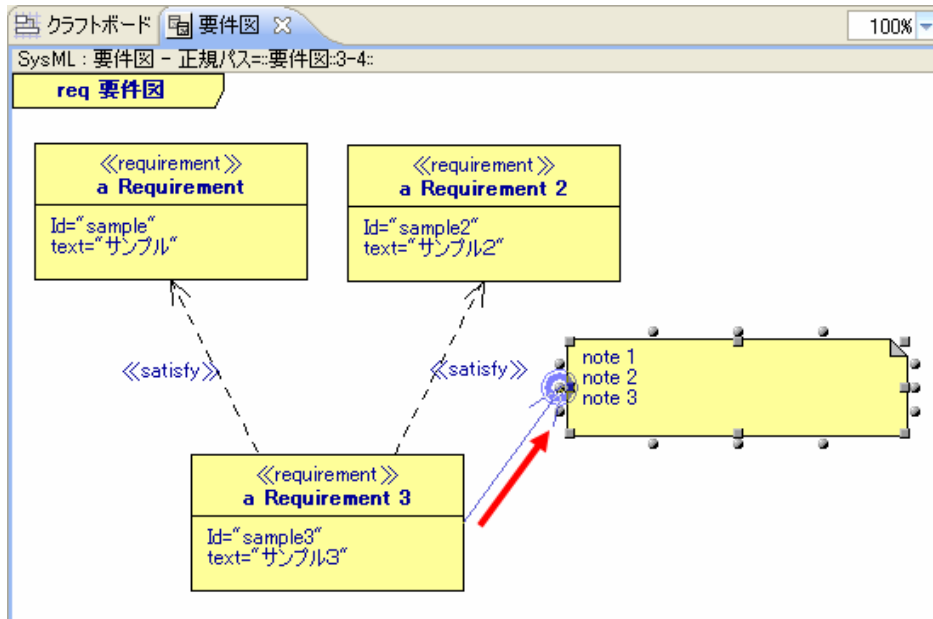


図 3.4

次に、ノートを右クリックしてコンテキストメニュー「依存関係情報の表示[SysML]」から、該当するステレオタイプを選択します。

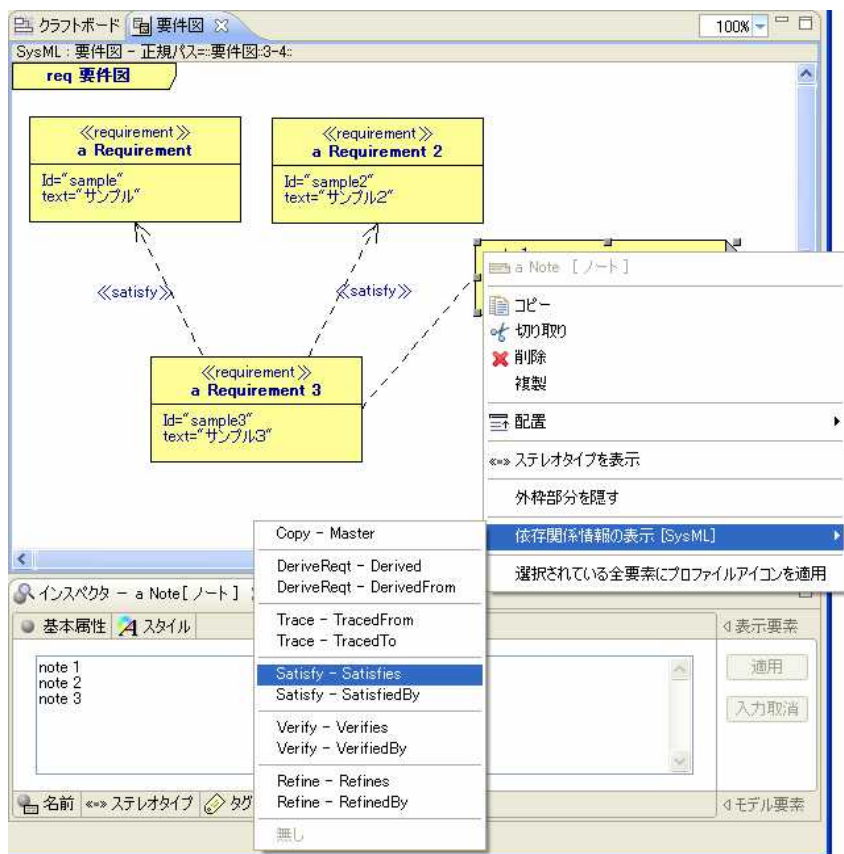


図 3.5

以上の操作を行うと、ノートは以下のように表示が変わります。

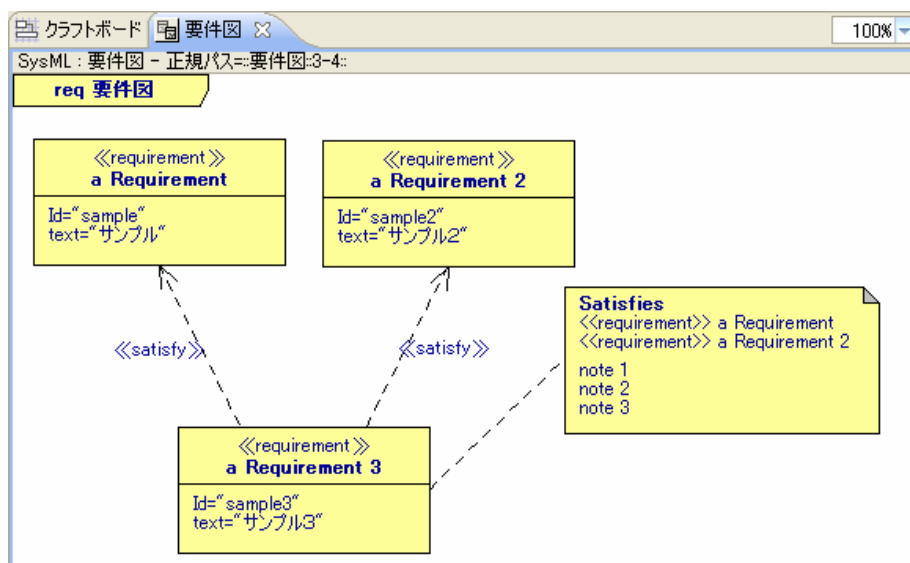


図 3.6

3.5. 要件のテーブル表現

要件をテーブル表現にするには、まずダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに構成要件の一覧表をドラッグ&ドロップします。次に、配置した一覧表要素のインスペクタ上で「選択...」ボタンをクリックすると、ダイアグラム選択ダイアログが表示されますので、対象となる要件図を選択して「選択」ボタンをクリックします。

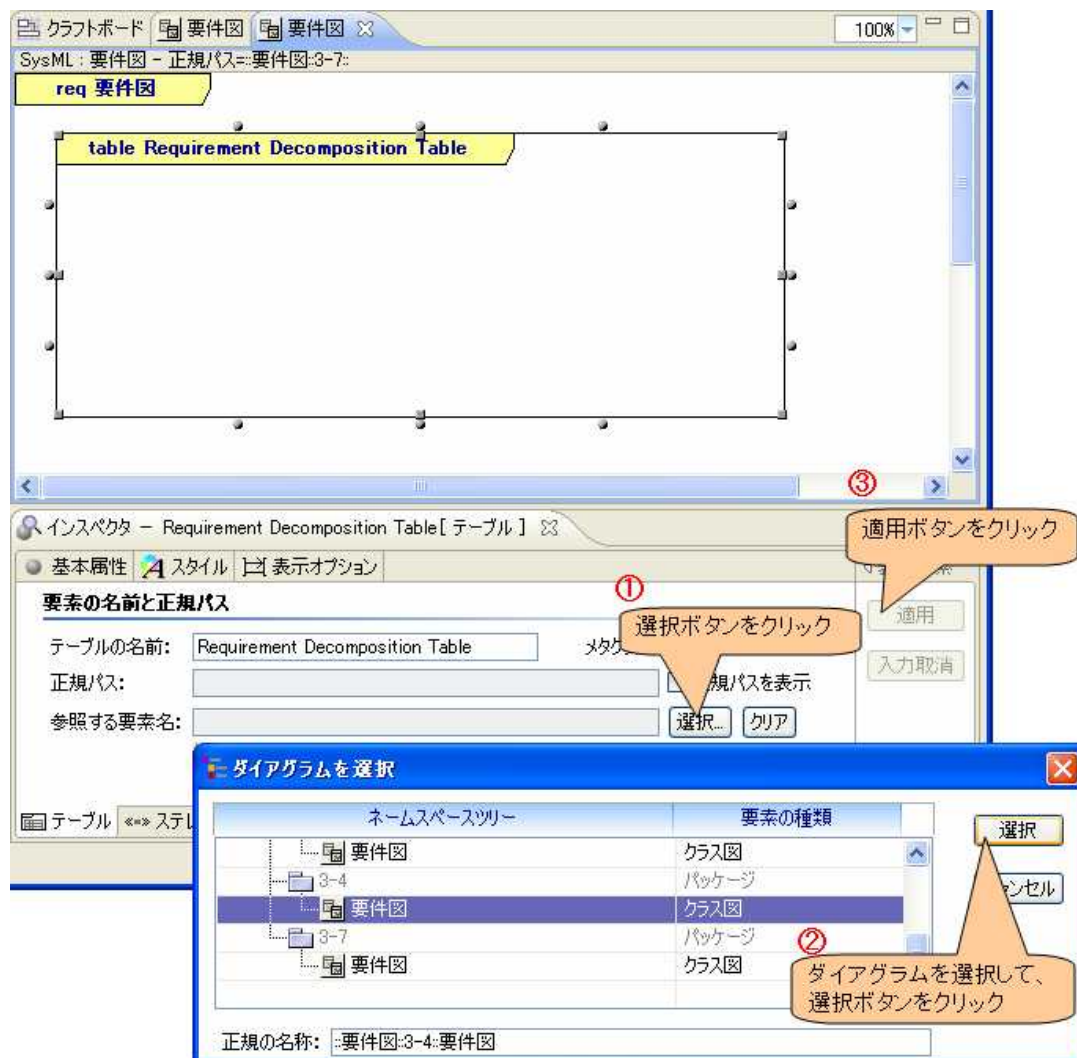


図 3.7



図 3.8

また、構成要件の一覧表を右クリックして、コンテキストメニューから「要件の導出を一覧する」を選択すると、導出要件の一覧表に切り替えることができます。導出要件の一覧表は、要件間の関係線にステレオタイプ「deriveReq」が付加しているものが一覧に表示されます。



図 3.9

3.6. ダイアグラムの例

以上のような操作から、要件図を作成した例を以下に記載します。

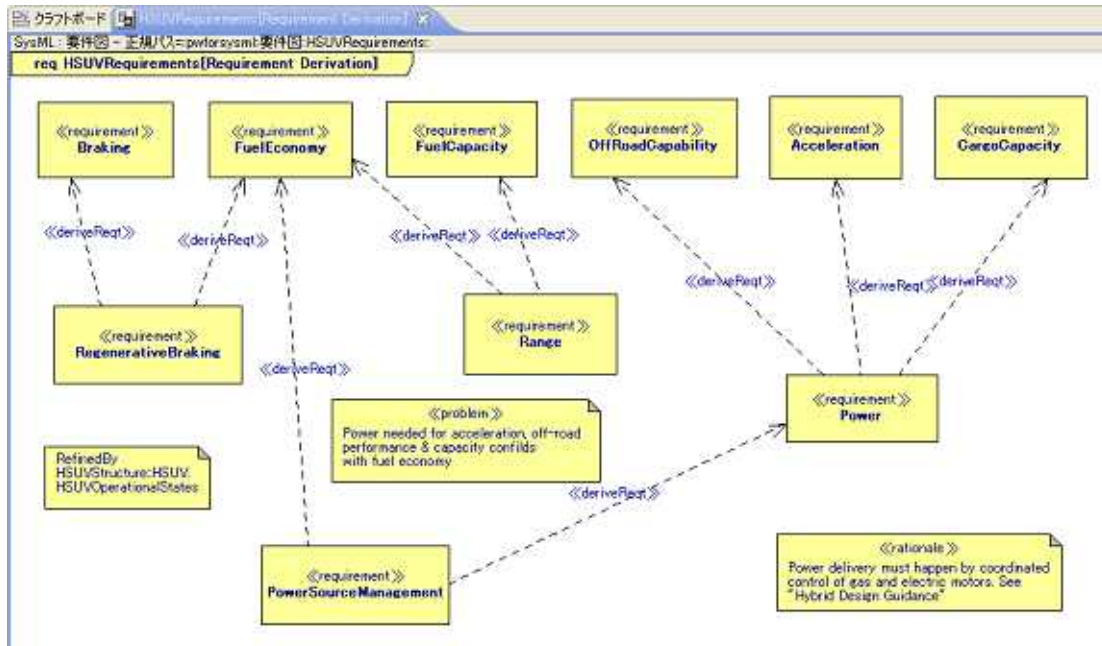


図 3.10

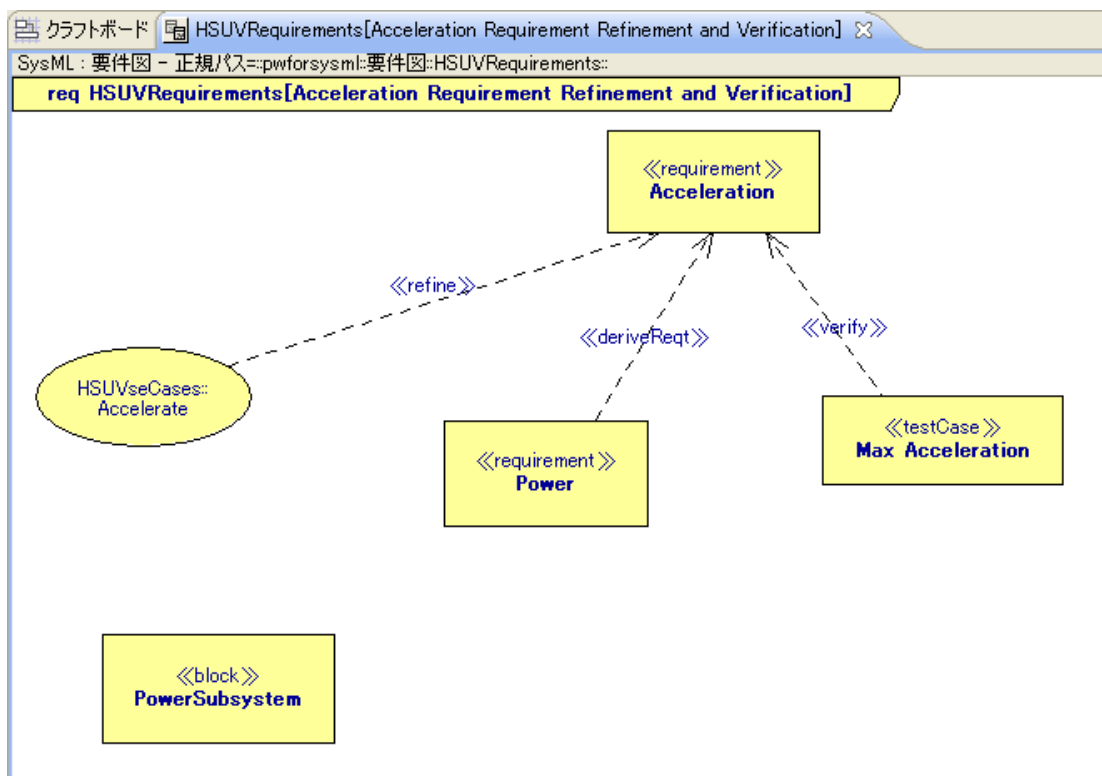


図 3.11

4. ブロック定義図

4.1. ブロック定義図の追加

モデルにブロック定義図を追加するときは、以下のいずれかの操作を行います。

操作：メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「ブロック定義図[SysML]」を選択

操作：プロジェクトビュー上でモデルやパッケージを右クリックしてコンテキストメニューから「カスタムダイアグラムを新規追加」 - 「ブロック定義図[SysML]」を選択

この操作を実行すると、ダイアグラムがプロジェクトビューに追加され、追加したダイアグラムがダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

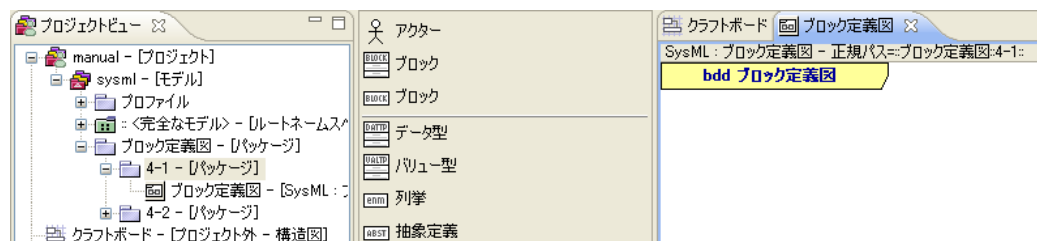


図 4.1

4.2. ブロックの追加

ブロックを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにブロックをドラッグ&ドロップします（ダイアグラムツールバーには、ブロックはデフォルトの表示が違うものが四種類用意されています）。ブロックの詳細はインスペクタ上で編集します。また、要素を右クリックしてコンテキストメニューから各区画の表示 / 非表示の切り替えをすることが出来ます。

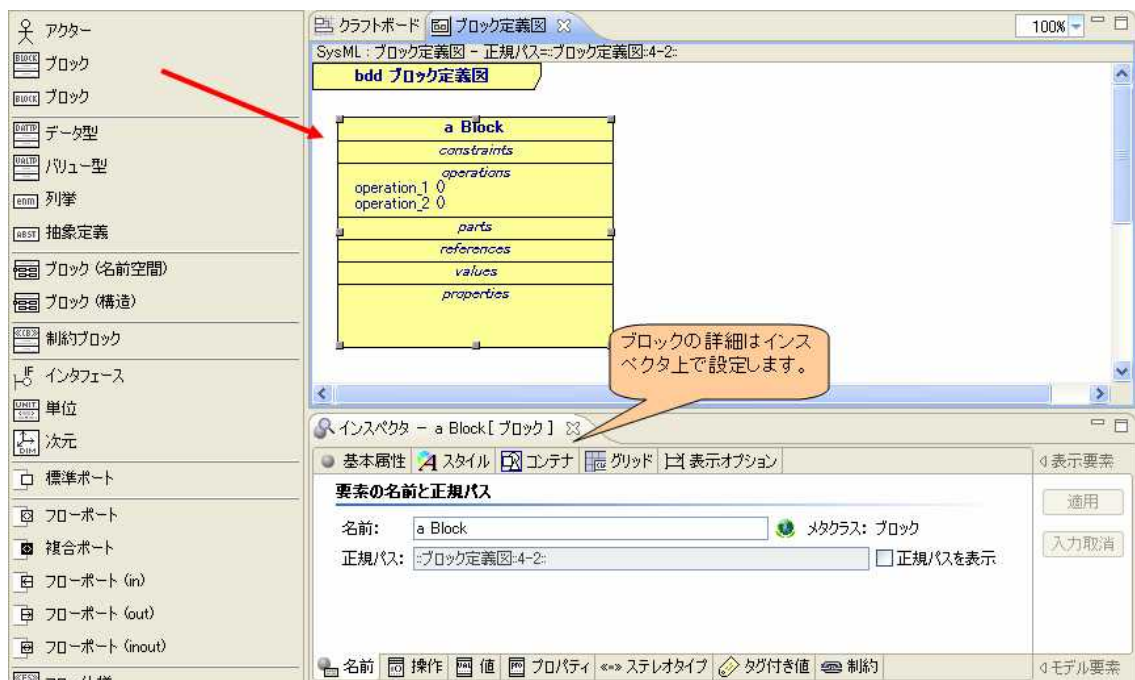


図 4.2

4.3. ポートの追加

ブロックに「ポート」を追加するには、ダイアグラムツールバーから追加したいポートを選択し、ブロックの境界にドラッグ&ドロップします。

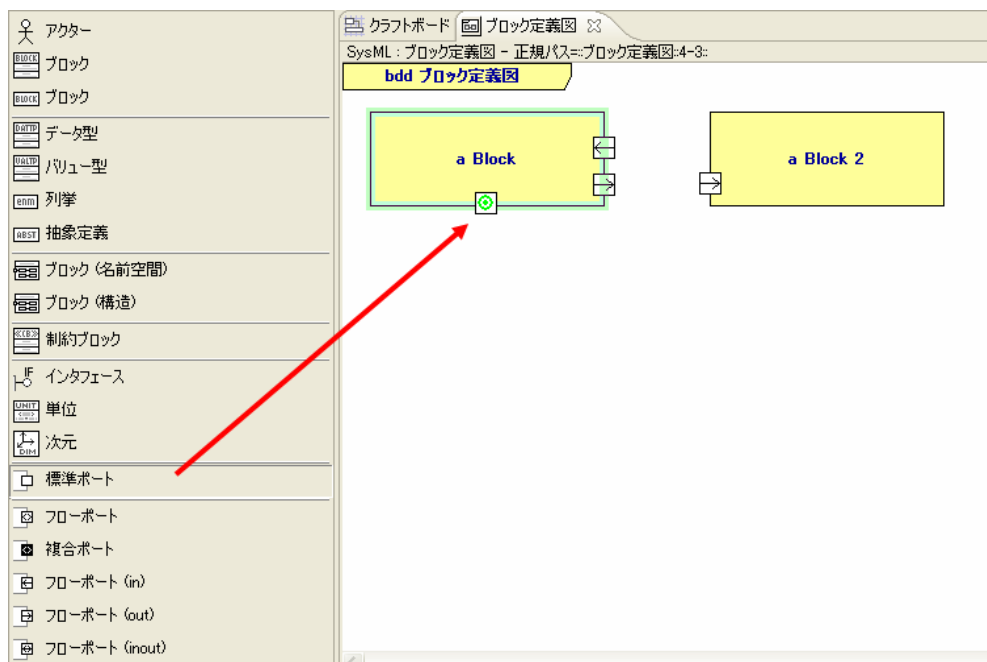


図 4.3

4.4. ポートの型設定

ポートに型を設定するには、まずポートのインスペクタから型名の「選択…」ボタンをクリックします。次に、割り当てたい要素を選択して選択ボタンをクリックします。

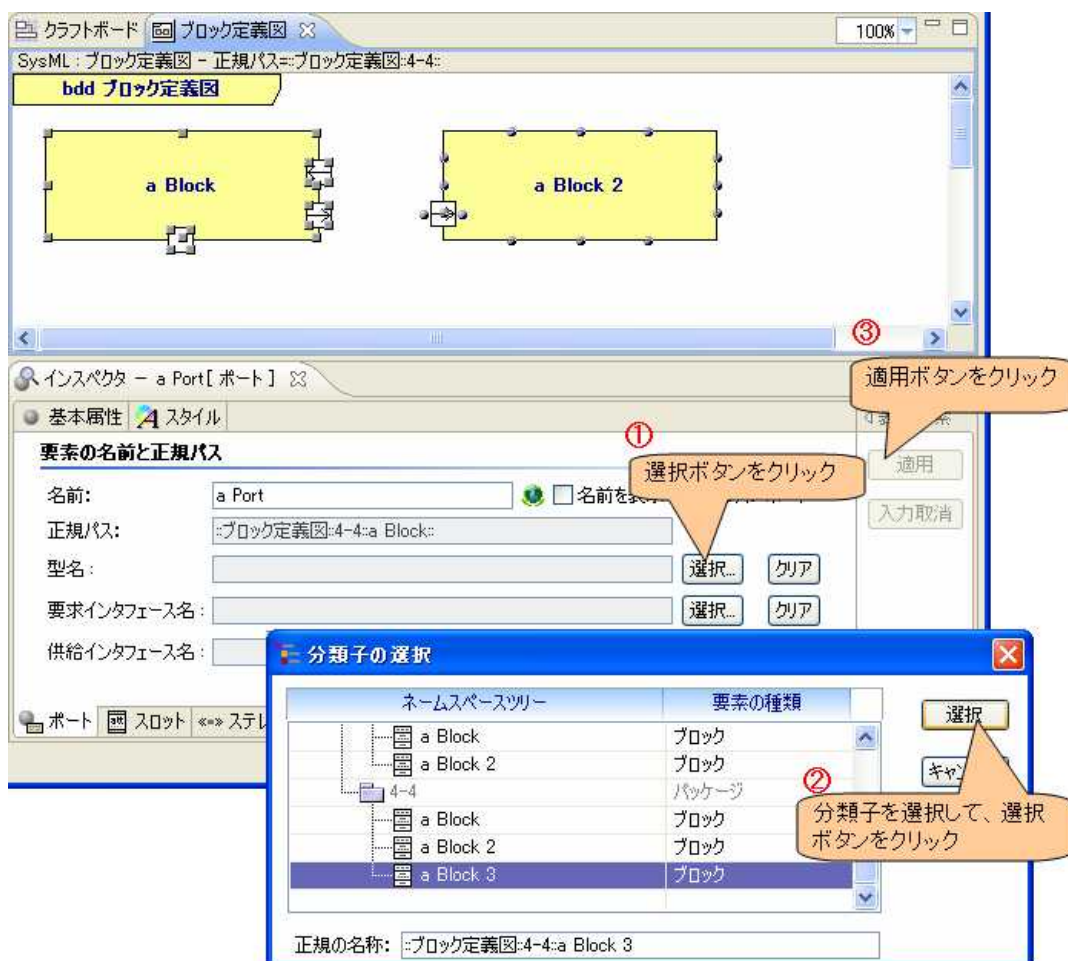


図 4.4

4.5. フロー仕様の追加

フロー仕様を追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにフロー仕様をドラッグ&ドロップします。フロー属性に値を設定する際はインスペクタ上で編集します。

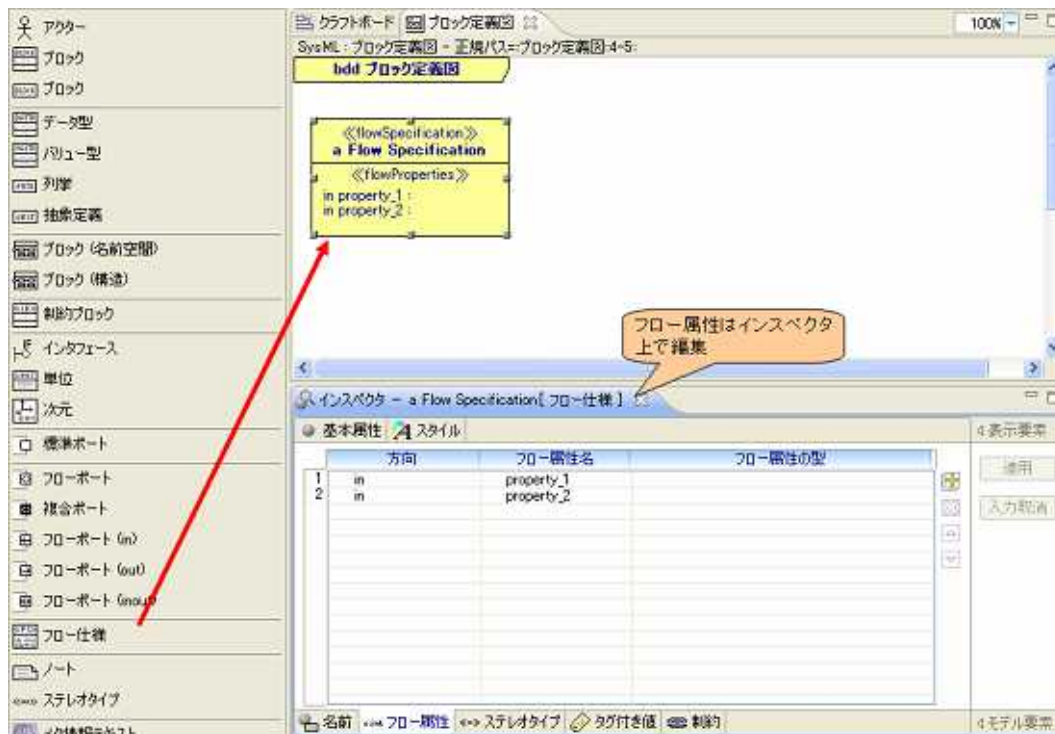


図 4.5

4.6. 制約ブロックの追加

制約ブロックを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに制約ブロックをドラッグ&ドロップします。パラメータ及び制約に値を設定する際はインスペクタ上で編集します。

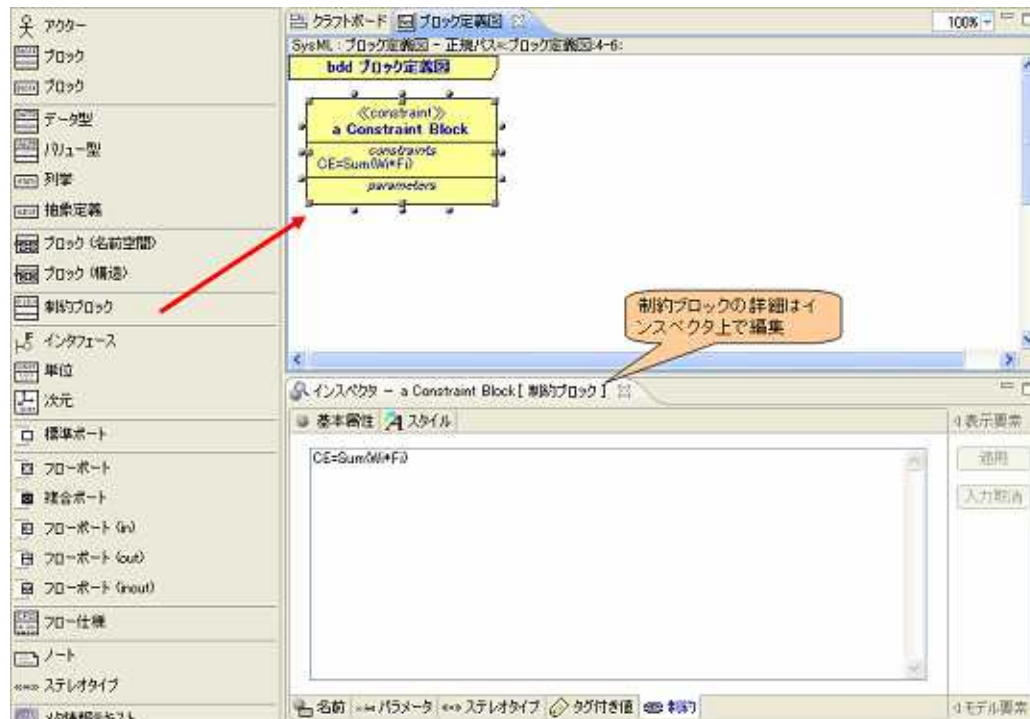


図 4.6

4.7. ダイアグラムの例

以上のような操作から、ブロック定義図を作成した例を以下に記載します。

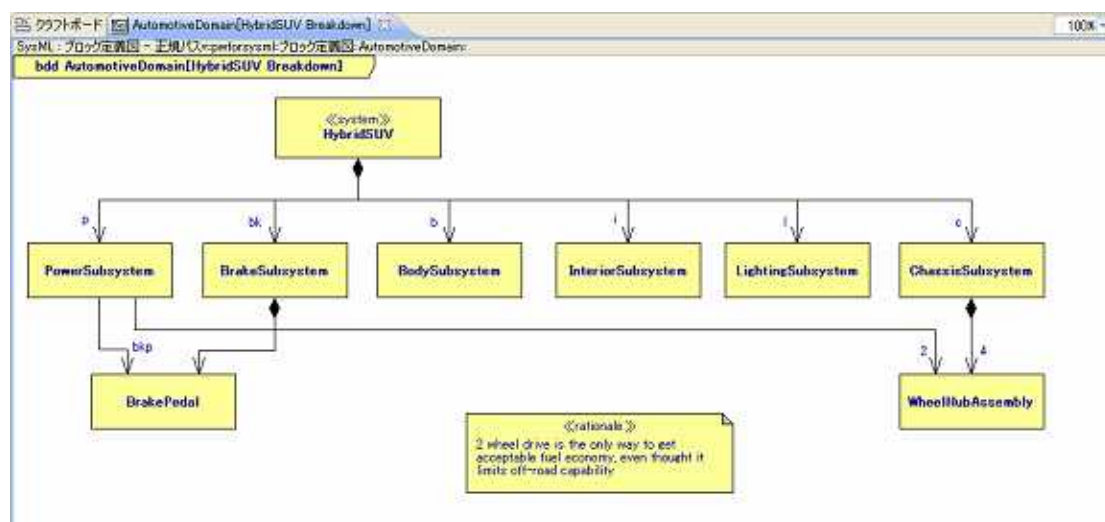


図 4.7

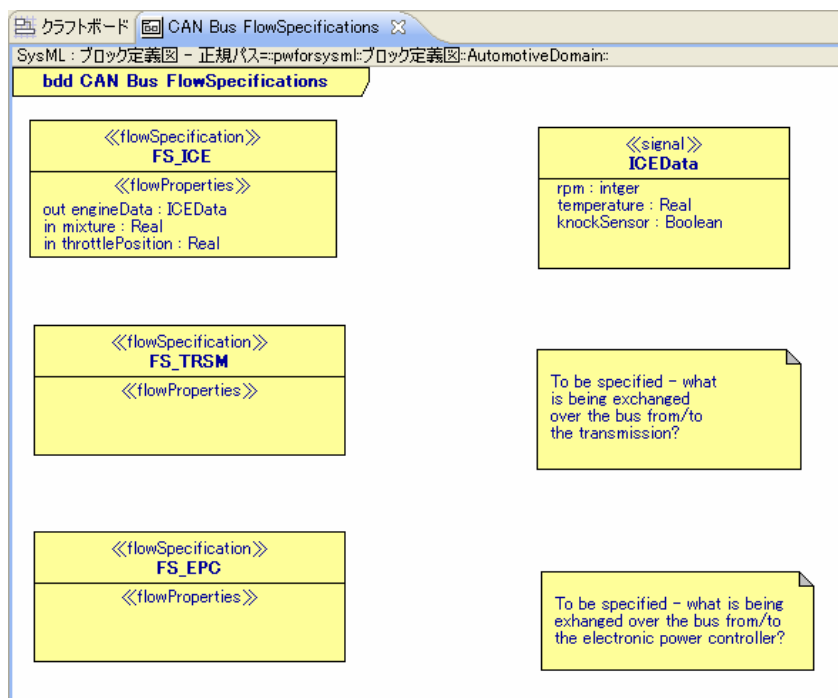


図 4.8

5. 内部ブロック図

5.1. 内部ブロック図の追加

モデルに内部ブロック図を追加するときは、以下のいずれかの操作を行います。

操作：メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「内部ブロック図[SysML]」を選択

操作：プロジェクトビュー上でモデルやパッケージを右クリックしてコンテキストメニューから「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「内部ブロック図[SysML]」を選択

この操作を実行すると、ダイアグラムがプロジェクトビューに追加され、ダイアグラムがダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

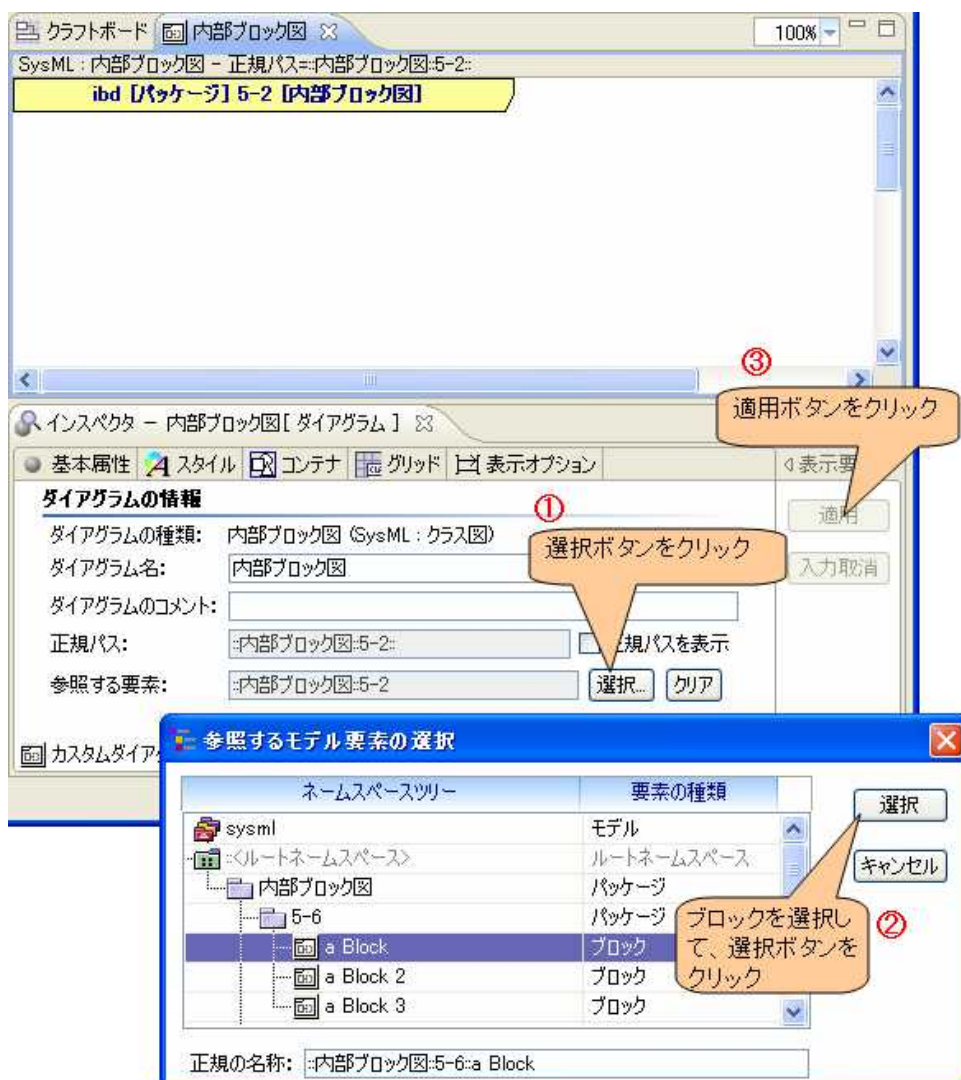


図 5.1

また以下の手順で、ブロックの内部ダイアグラムとして内部ブロック図を作成することができます。

操作：ブロック定義図に配置されているブロックを右クリックして、コンテキストメニューから「ダイアグラム領域で表示」を選択

この操作を実行すると、指定したブロックの内部ブロック図がダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

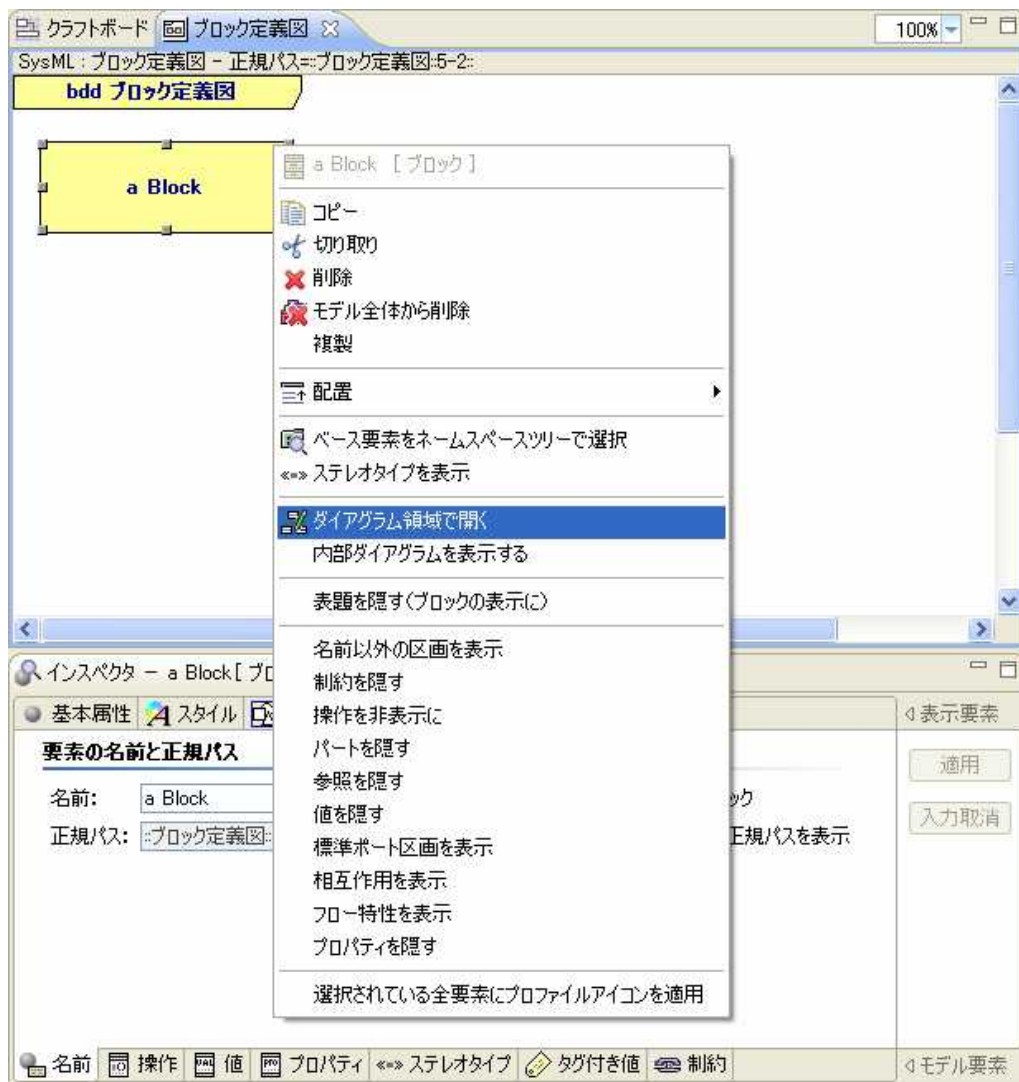


図 5.2

5.2. ダイアグラムの親要素設定

ダイアグラムにブロックを設定するにはまず、ダイアグラムのインスペクタで、参照する要素の「選択…」ボタンをクリックします。次に、参照するモデル要素選択ダイアログで、ブロックを選択して「選択」ボタンをクリックします。

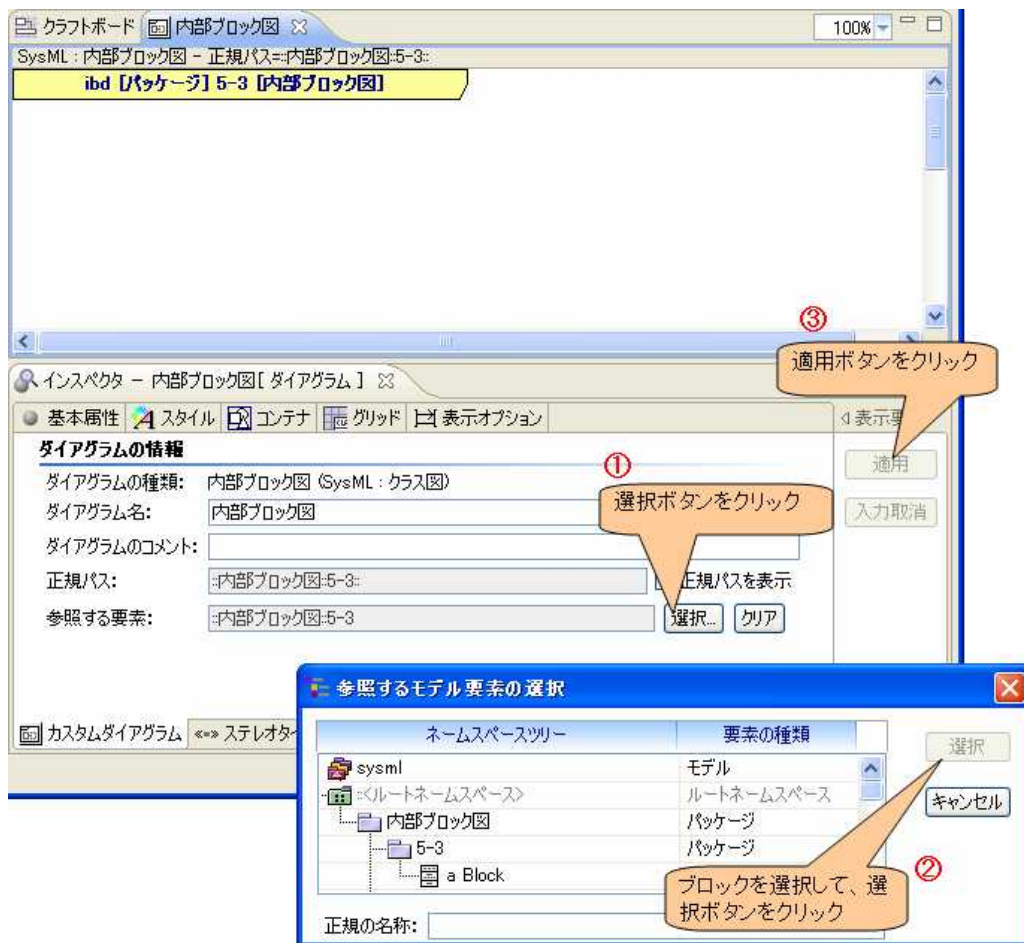


図 5.3

以上の操作を行うと、以下の図のようにダイアグラムにブロックが設定された状態になります。

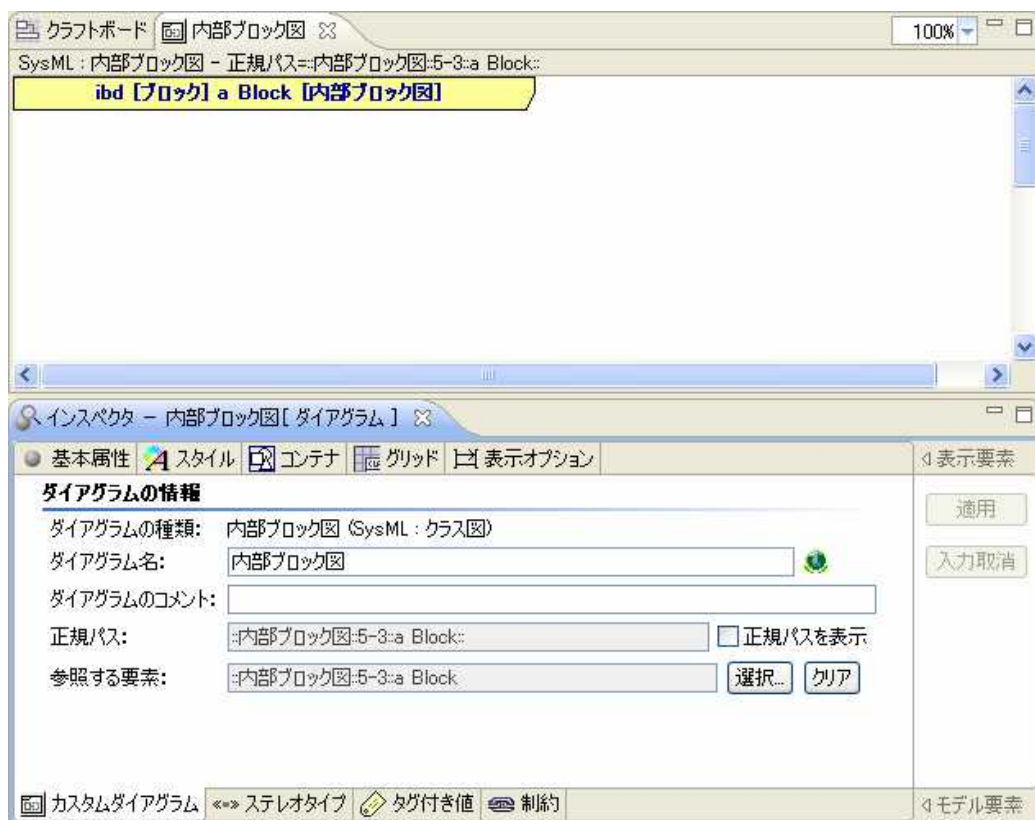


図 5.4

なお、ダイアグラムを作成する際に、メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「内部ブロック図[SysML]」を選択すると、図 5.3 の「参照するモデル要素の選択」ダイアログが表示されるので、このときにブロックを設定することも可能です。

5.3. プロパティの追加

プロパティを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにプロパティをドラッグ&ドロップをします。プロパティはデフォルトの表示が異なるものが四種類用意されています。パラメータに値を設定する際はインスペクタ上で編集します。

また、パラメータを非表示にするときは、プロパティを右クリックしてコンテキストメニューの「パラメータを隠す」を選択、初期値を非表示にするときは、プロパティを右クリックしてコンテキストメニューの「初期値を隠す」を選択します。

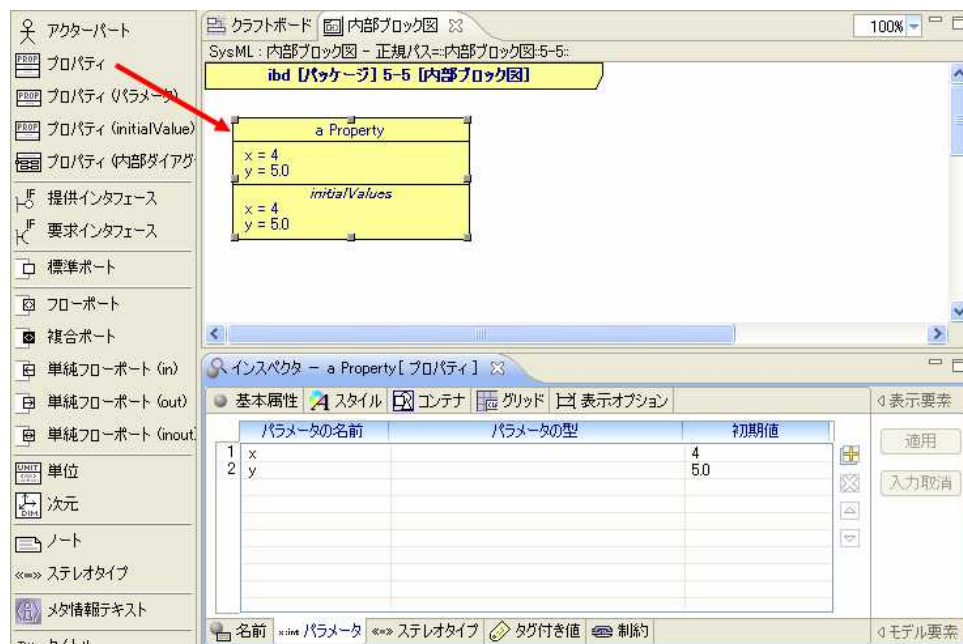


図 5.5

5.4. プロパティの型設定

プロパティの型にブロックの型を指定するには、まずインスペクタの「選択…」ボタンをクリックして、分類子の選択ダイアログを表示します。次に、対象の分類子を選択して「選択」ボタンをクリックします。

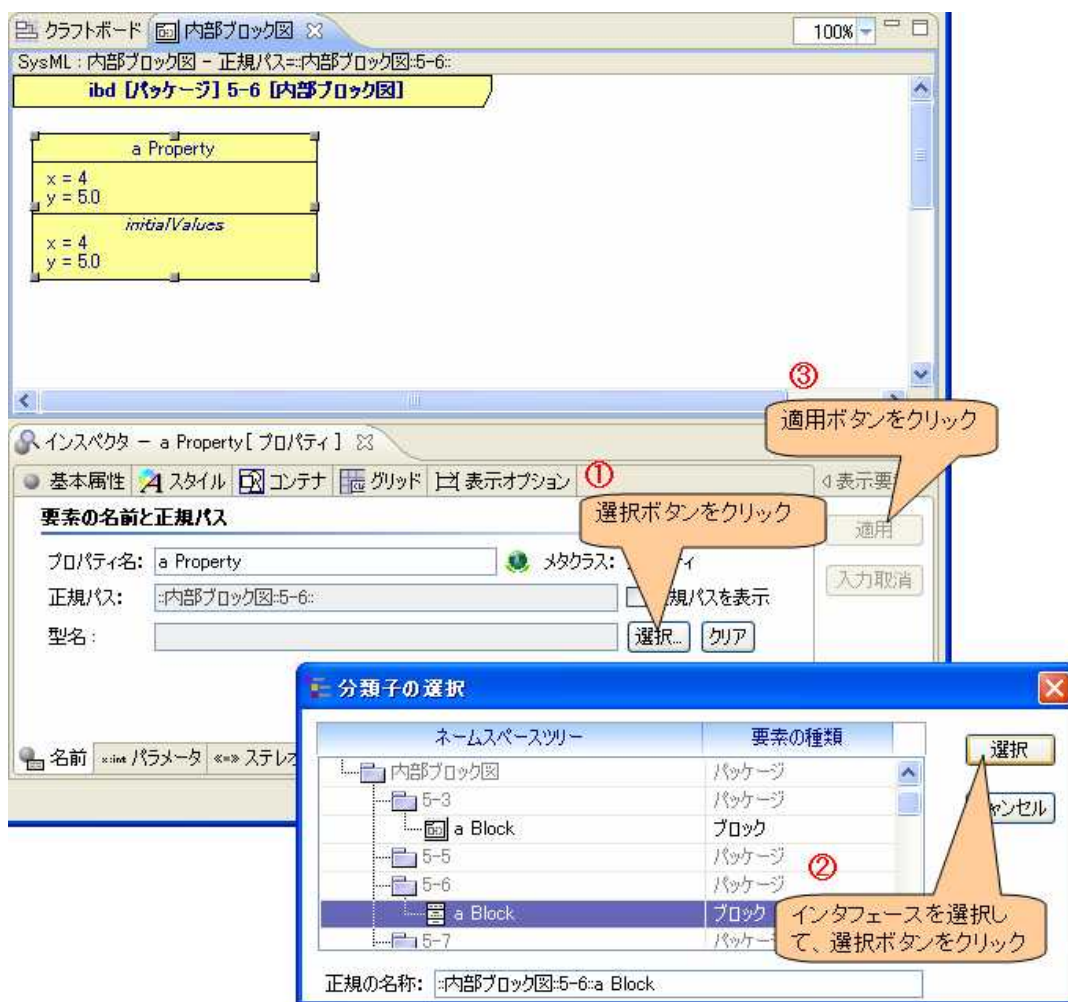


図 5.6

5.5. 型を指定したプロパティの追加

プロジェクトビューからダイアグラムビューにブロックをドラッグ&ドロップすることで、あらかじめ作成しておいたブロックの型を指定して、プロパティを配置することが出来ます。



図 5.7

5.6. 型を指定したプロパティの表示

プロパティの型として設定したブロックの定義により、そのプロパティがパートプロパティまたは、リファレンスプロパティとして扱われ、ダイアログ上での表示が異なります。

内部ブロック図で、パートプロパティとして定義したプロパティは、外枠が実線で表示され、リファレンスプロパティとして定義したプロパティは、外枠が破線で表示されます。

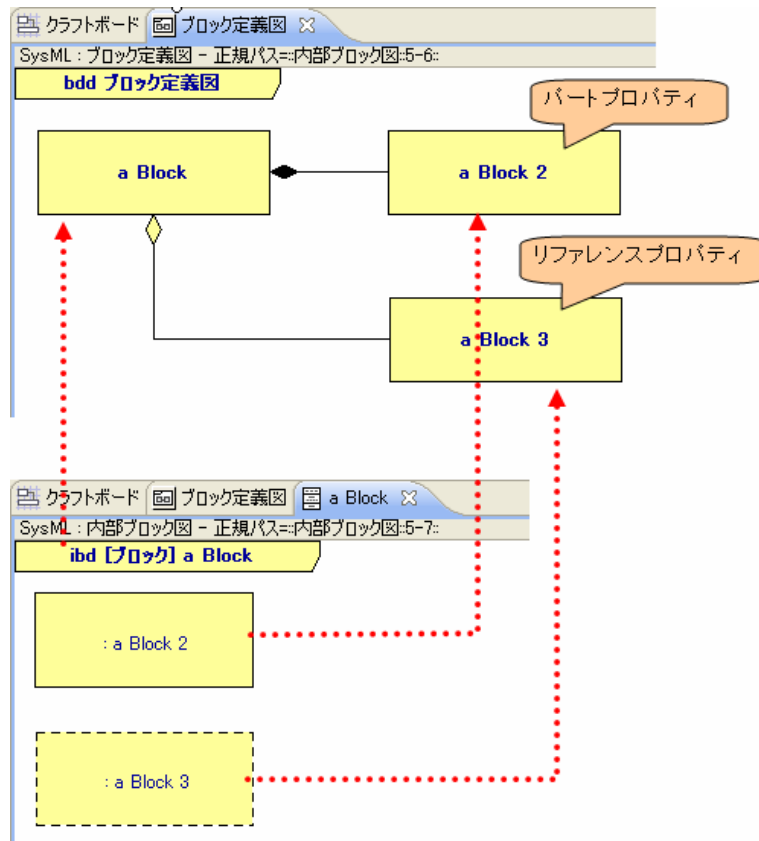


図 5.8

また、ブロック定義図上で多重度を設定している場合、内部ブロック図ではプロパティの右肩に多重度が表示されます。

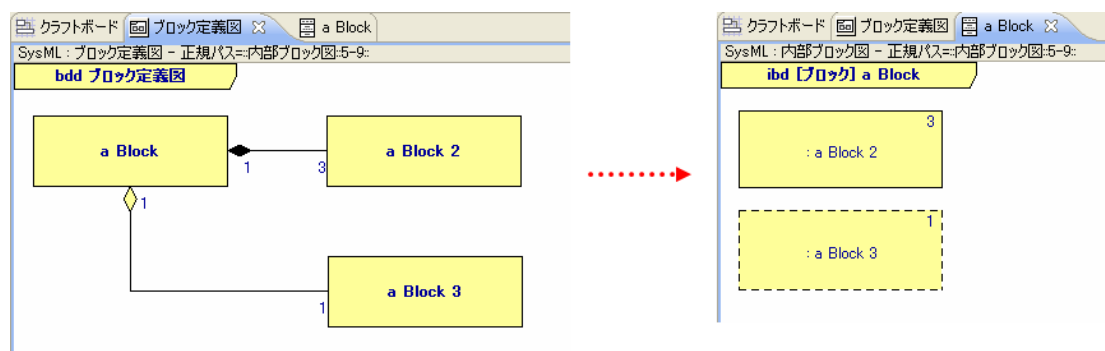


図 5.9

5.7. プロパティの構造化

プロパティを構造化するには、まずプロパティを右クリックしてコンテキストメニューから、「内部ダイアグラムを表示する」を選択します。

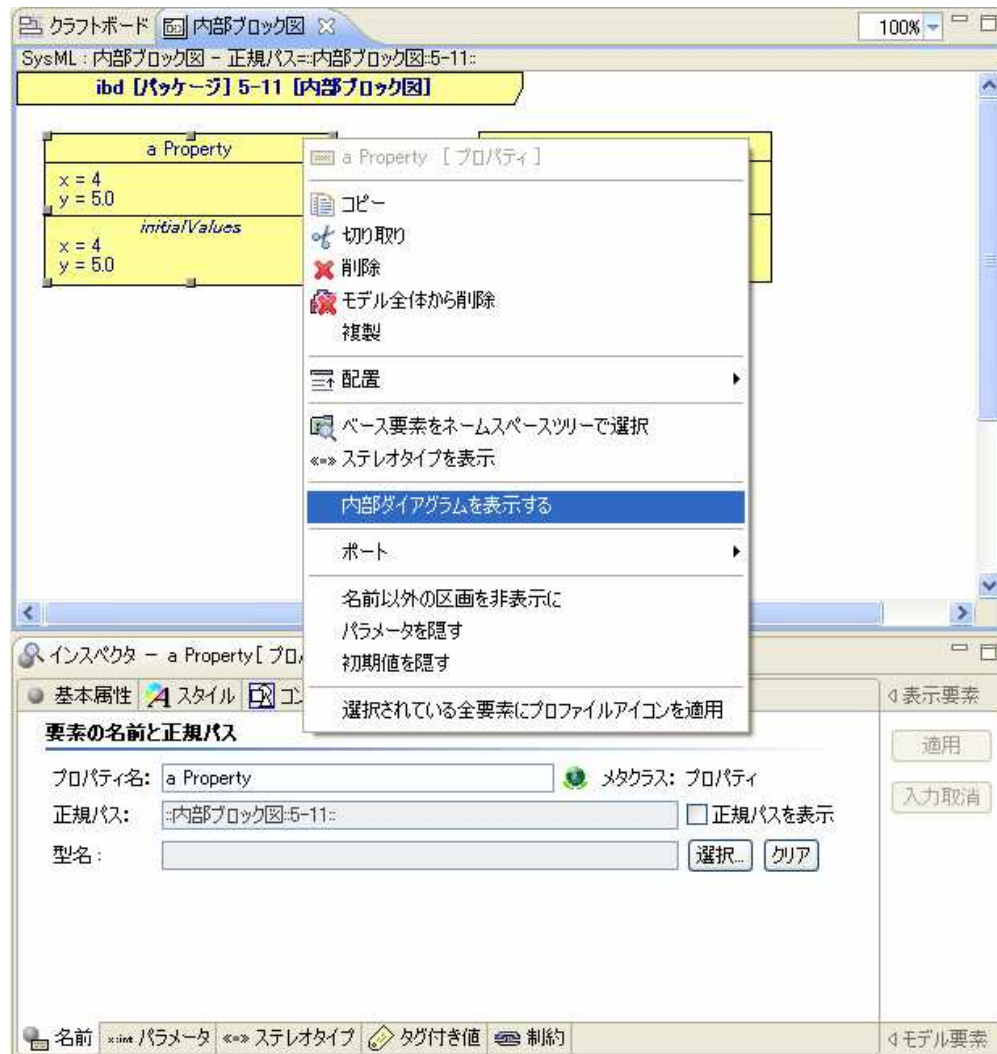


図 5.10

次に、プロパティのサイズを変更して内部ダイアグラム区画の大きさを調整します。その後、内部ダイアグラム内にプロパティを右クリックでドラッグ&ドロップをすることで、内部ダイアグラムにプロパティを定義することが出来ます。

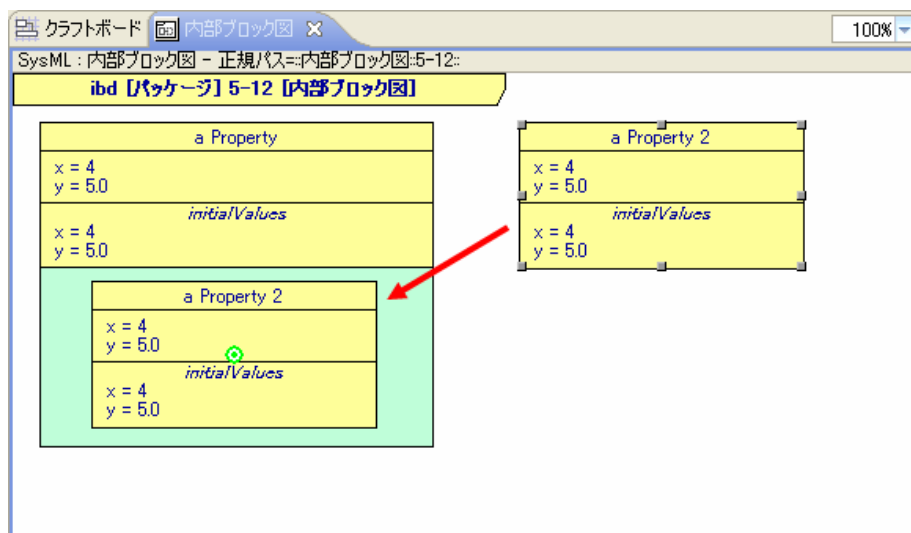


図 5.11

5.8. ポートの追加

プロパティに「ポート」を追加するには、ダイアグラムツールバーから設定したいポートに該当するものを選択して、要素の境界にドラッグ&ドロップします。

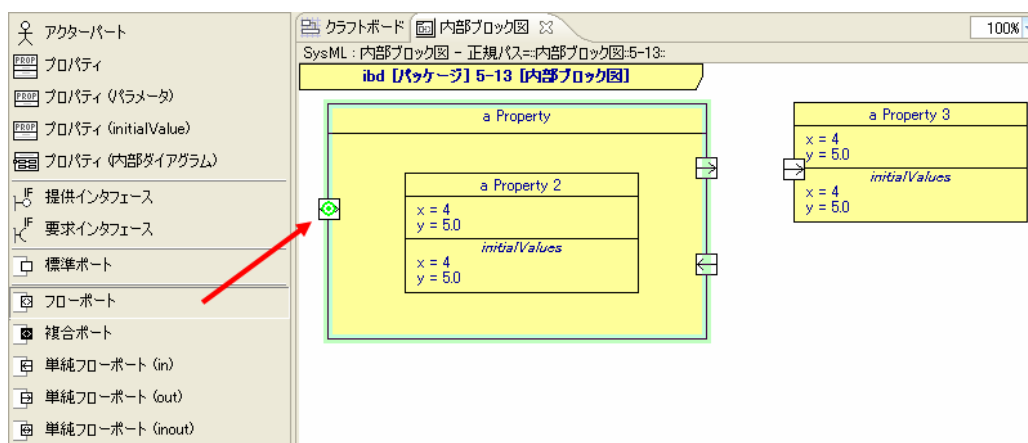


図 5.12

また、ダイアグラムの境界にポートをドラッグ&ドロップをすると、ダイアグラムの境界にポートを配置することが出来ます。

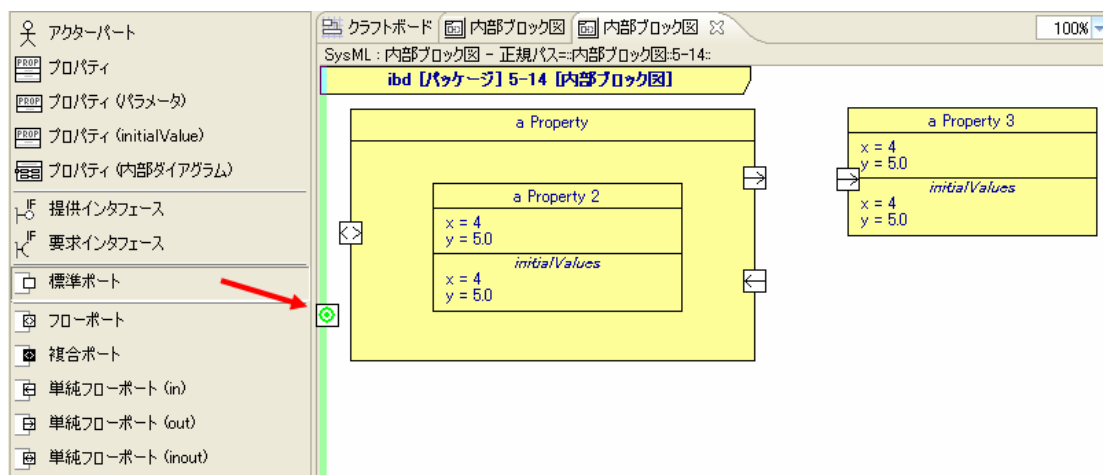


図 5.13

このほかにも、プロパティを右クリックしてコンテキストメニューから「ポート」を選択し、設定したいポートに該当するものを選択する方法で、ポートを追加することが出来ます。

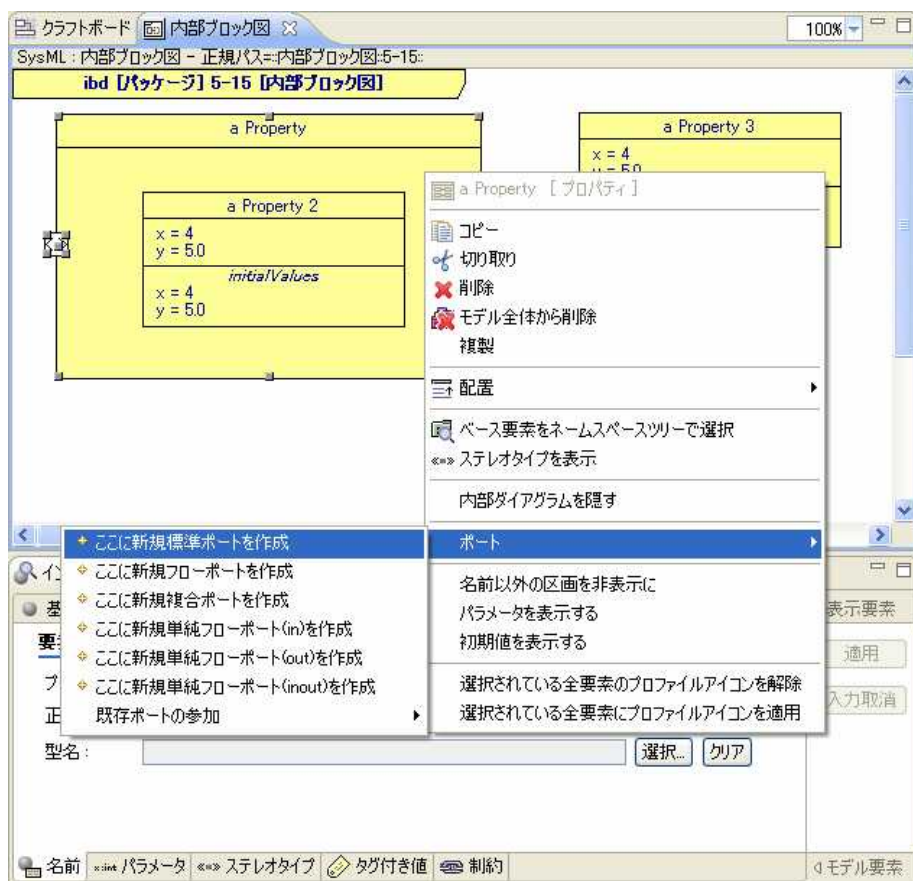


図 5.14

5.9. ポートの型設定

ポートに型を設定するには、まずポートのインスペクタから型名の「選択…」ボタンをクリックします。次に、割り当てたい要素を選択して選択ボタンをクリックします。

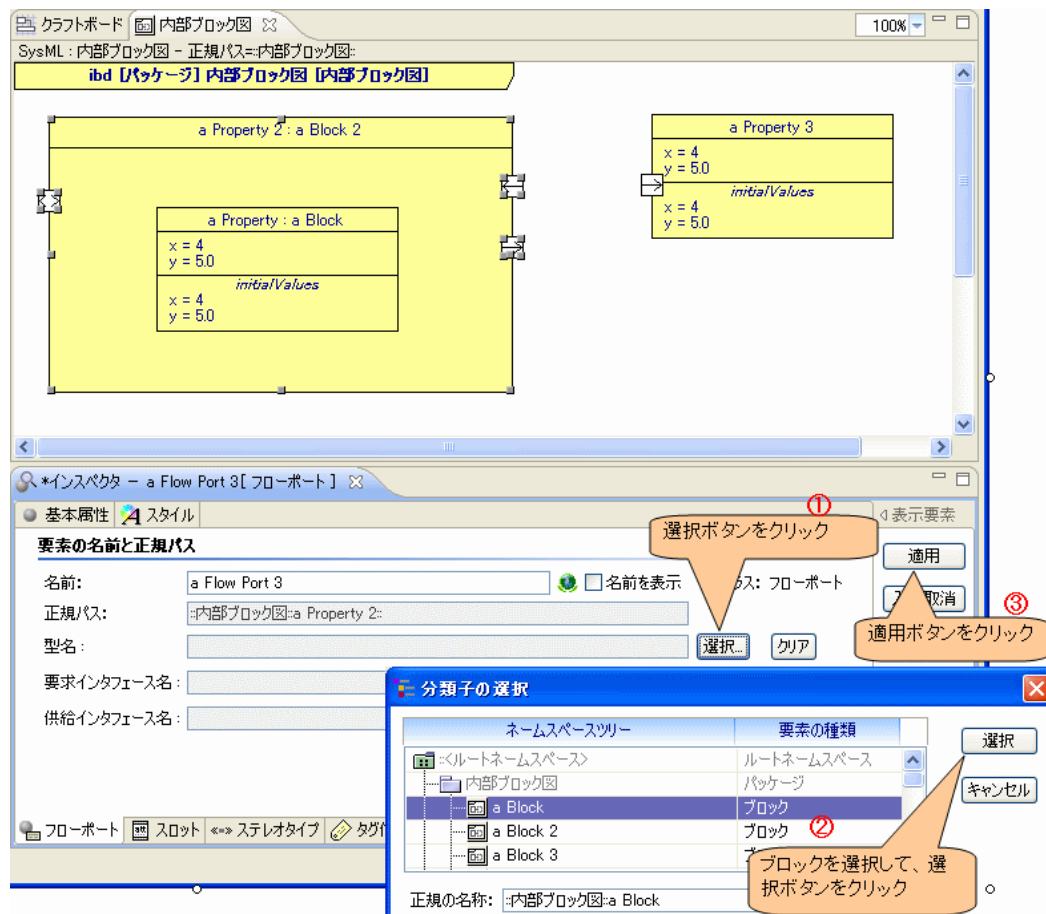


図 5.15

5.10. ポート間の接続

ポート間を接続するときは、ポートのコネクタ間をドラッグ&ドロップして接続します。

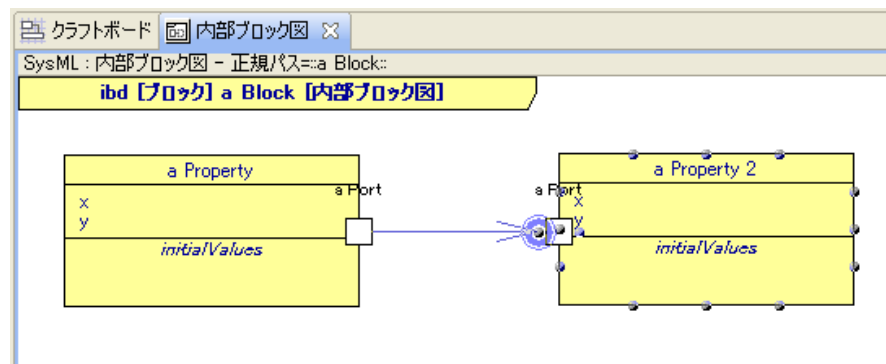


図 5.16

フローポートのコネクタ間をドラッグ&ドロップした際は、アイテムフローで接続されます。

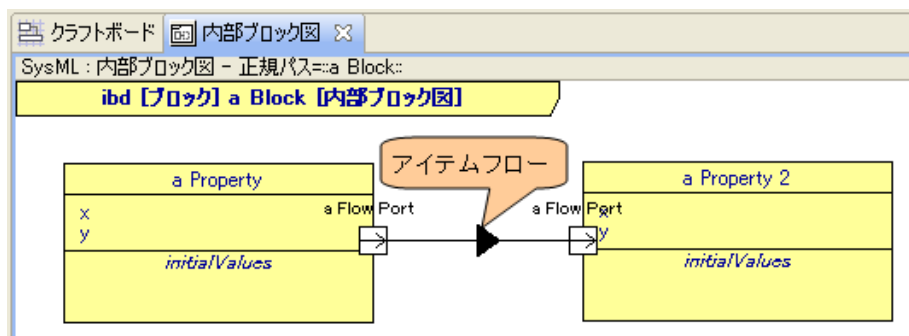


図 5.17

アイテムフローには方向性があるため、方向が合わないフローポートのコネクタ間をドラッグ&ドロップした場合はエラーとなり、接続の作成がキャンセルされます。

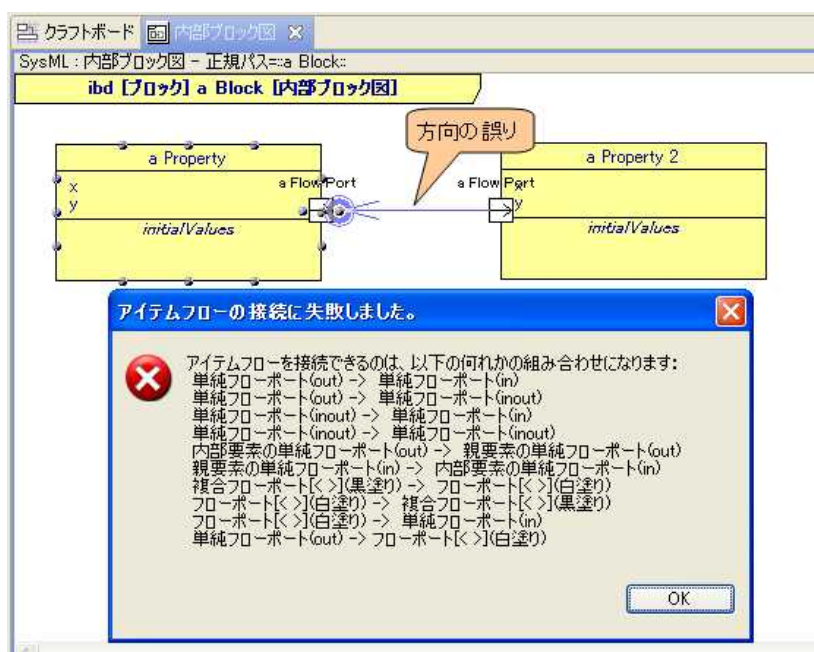


図 5.18

5.11. アイテムフローの型設定

アイテムフローの型は、アイテムフローのインスペクタで設定します。

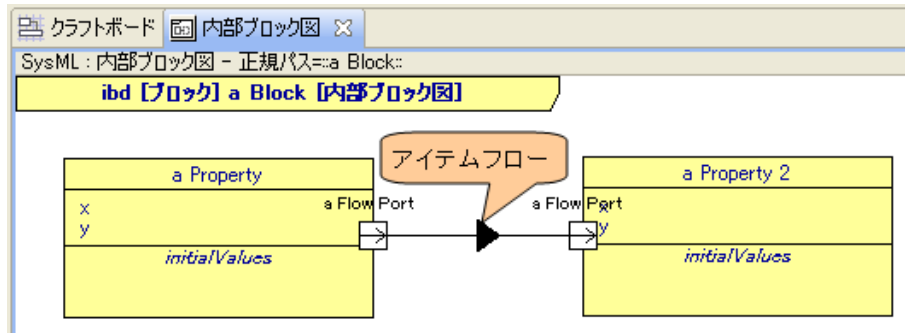


図 5.19

まずインスペクタのタブ「アイテムフローの型」の「選択…」ボタンをクリックします。次に対象の型を選択して「選択」ボタンをクリックします。



図 5.20

5.12. アイテムフローのプロパティ設定

アイテムプロパティを設定するには、まずインスペクタのタブ「アイテムプロパティ」の「選択…」ボタンをクリックします。次に対象のプロパティを選択して「選択」ボタンをクリックします。

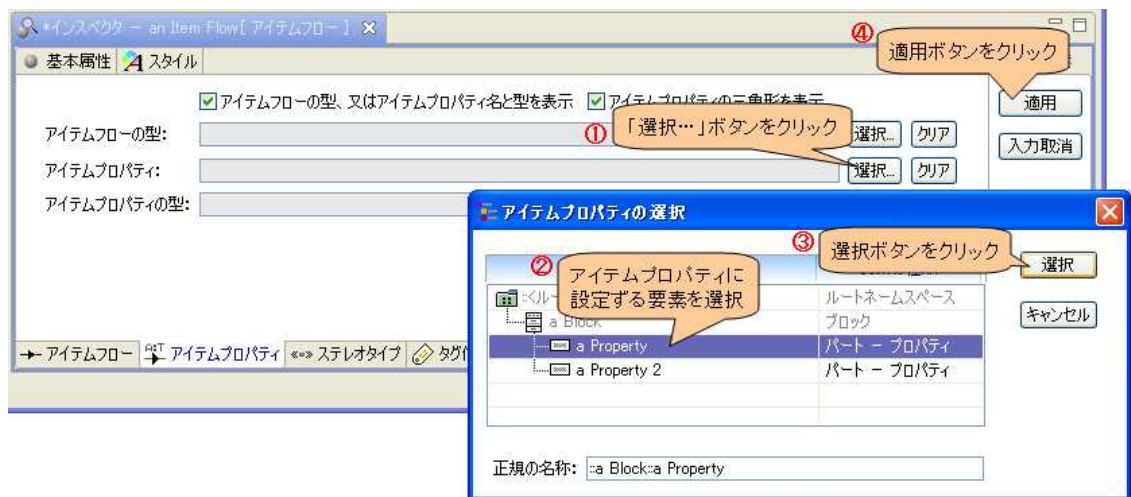


図 5.21

5.13. インタフェースの追加

ポートにインタフェースを追加するには、ダイアグラムツールバーから要求インタフェース / 供給インタフェースをダイアグラムビューにドラッグ&ドロップします。次に、配置したインタフェースとポートのコネクタ間をドラッグ&ドロップして結びます。

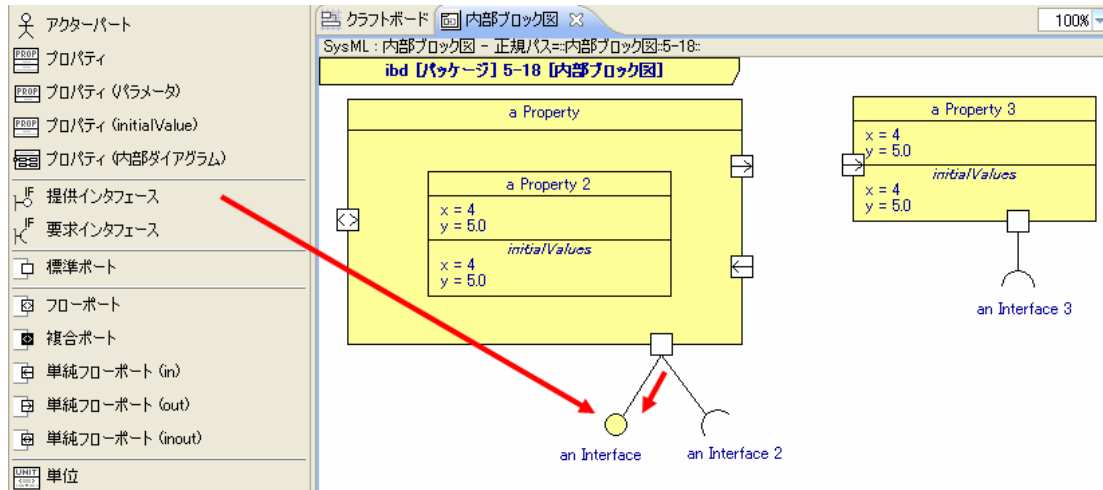


図 5.22

また、この操作のほかにも以下の操作でポートを追加することが出来ます。

まずポートのインスペクタ上で、要求インタフェース名 / 供給インタフェースの「選択...」ボタンをクリックします。次に、インタフェースの選択ダイアログでインタフェースを選択して「選択」ボタンをクリックします。

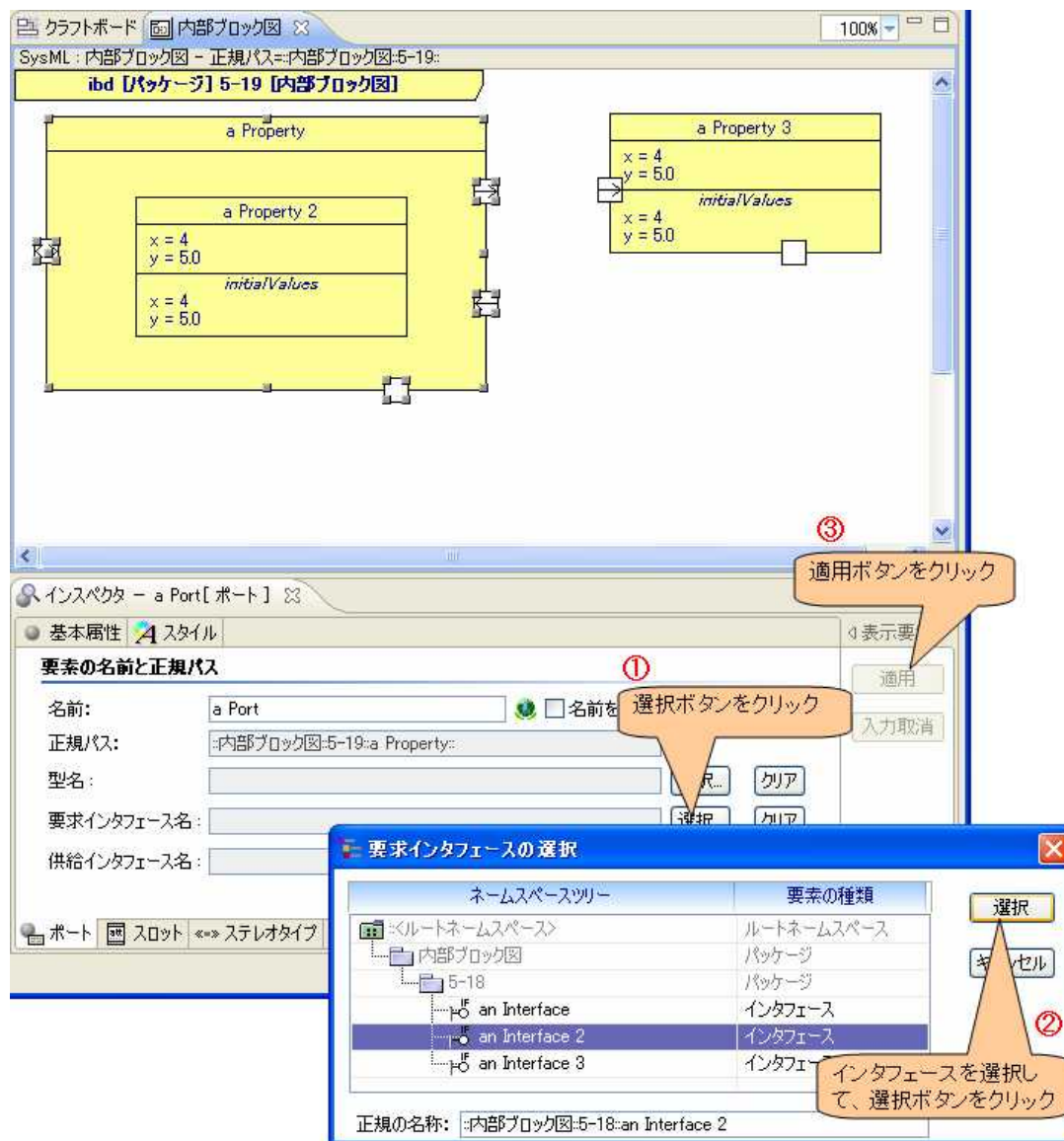


図 5.23

次に、ポートを右クリックしてコンテキストメニューから「ポートのインターフェースを参加」を選択します。

以上の操作を行うと、以下の図のようにポートにインターフェースが追加されます。

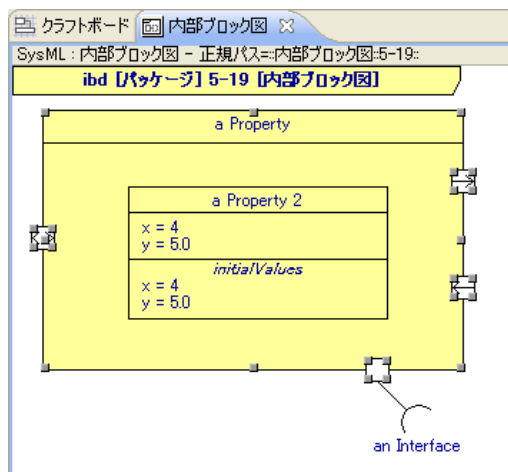


図 5.24

5.14. ダイアグラムの例

以上のような操作から、内部ブロック図を作成した例を以下に記載します。

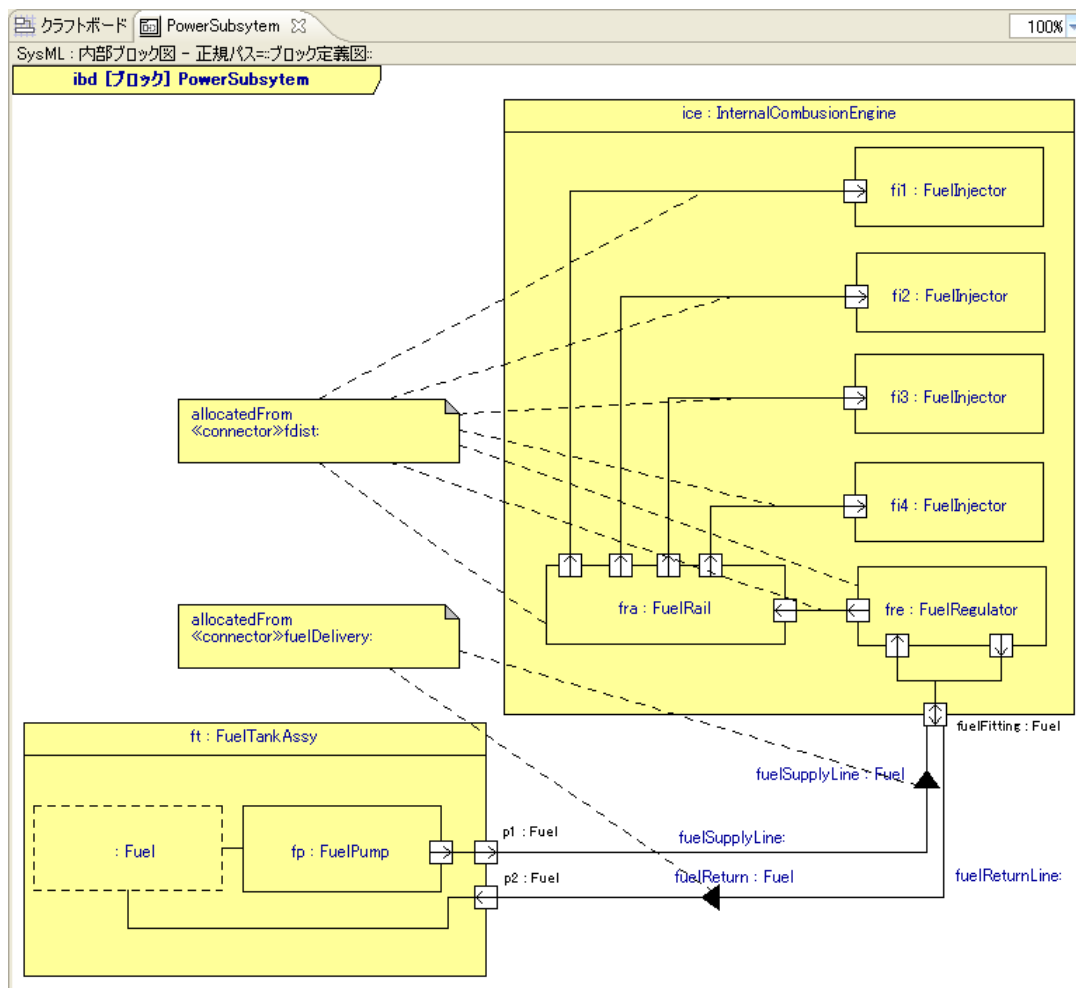


図 5.25

6. パラメトリック図

6.1. パラメトリック図の追加

モデルにパラメトリック図を追加するときは、以下のいずれかの操作を行います。

操作：メニューから「モデル」 - 「カスタムダイアグラムの新規追加」 - 「パラメトリック図[SysML]」を選択

操作：プロジェクトビュー上でモデルやパッケージを右クリックしてコンテキストメニューから「カスタムダイアグラムを新規追加」 - 「パラメトリック図[SysML]」を選択

この操作を実行すると、ダイアグラムがプロジェクトビューに追加され、追加したダイアグラムがダイアグラムビューに開かれて編集可能な状態になります。

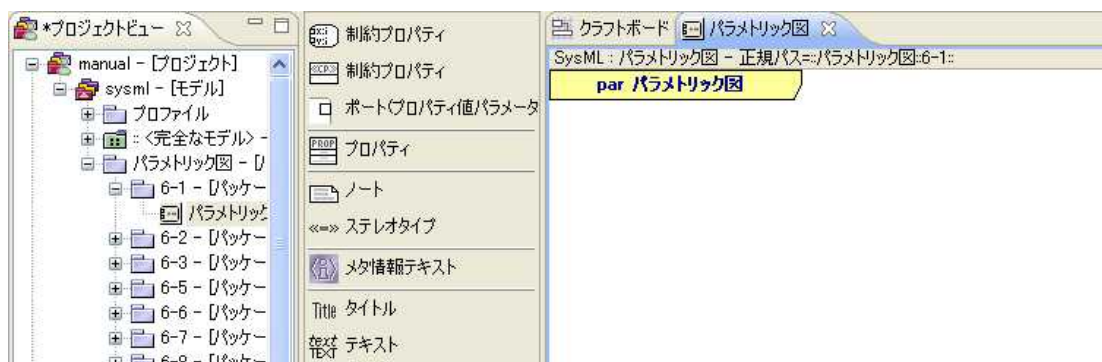


図 6.1

6.2. ダイアグラムの親要素設定

ダイアグラムに対してブロックを設定するには、まずダイアグラムのインスペクタで、参照する要素の「選択...」ボタンをクリックします。次に、参照するモデル要素選択ダイアログで、ブロックを選択して「選択」ボタンをクリックします。

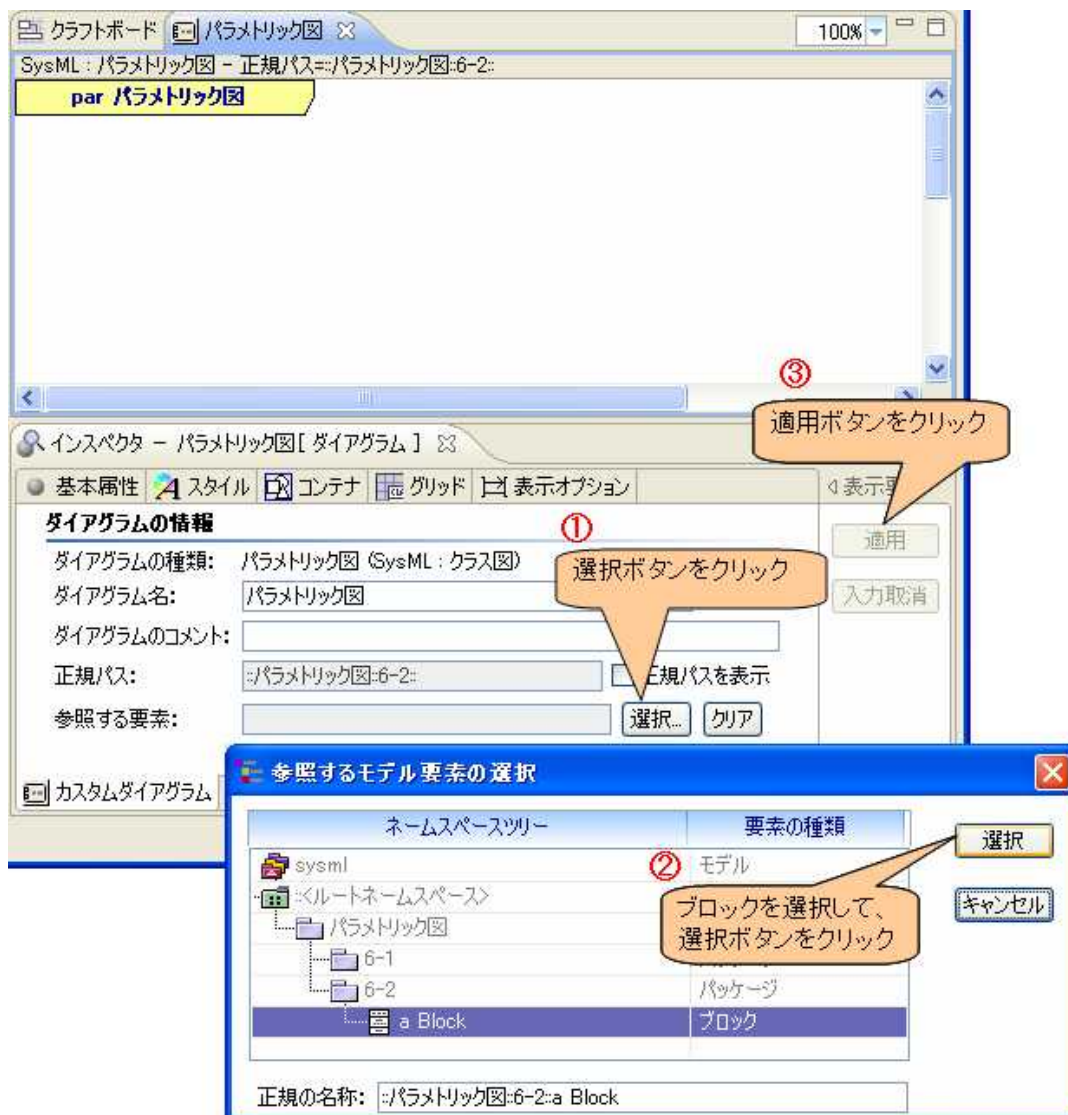


図 6.2

以上の操作を行うと、以下のようにダイアグラムにブロックが設定された状態になります。



図 6.3

6.3. 制約プロパティの追加

制約プロパティを追加するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに制約プロパティをドラッグ＆ドロップします。制約プロパティはデフォルトの表示が違いますが二種類用意されています。

なお、制約プロパティを配置した後に、右クリックからコンテキストメニューの「クラスの型で描画」 / 「制約プロパティの型で描画」を選択することで、要素の描画方法を変更することが出来ます。

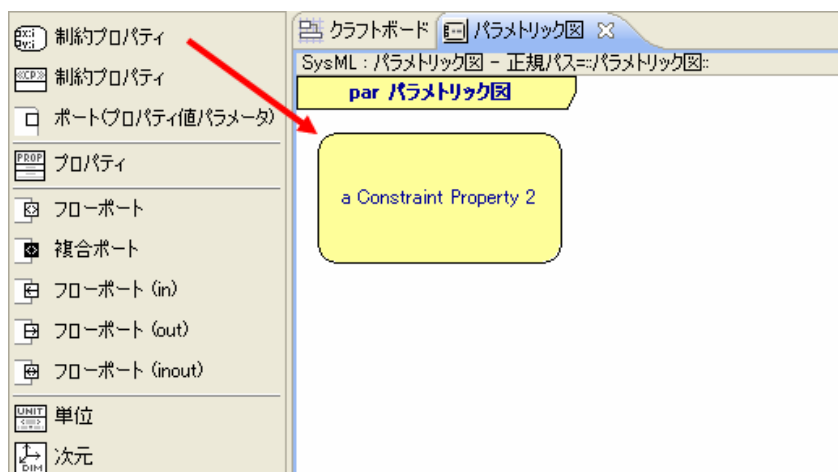


図 6.4

6.4. 制約プロパティの型設定

制約プロパティに制約ブロックの参照を定義するには、まず制約プロパティを右クリックしてコンテキストメニューから「制約を表示する」を選択します。次に、制約プロパティのインスペクタから、「選択...」ボタンをクリックして「制約ブロックの選択」ダイアログを開きます。ブロックを選択して、「選択」ボタンをクリックします（制約ブロックの追加については「4.6 制約ブロックの追加」を参照してください）。

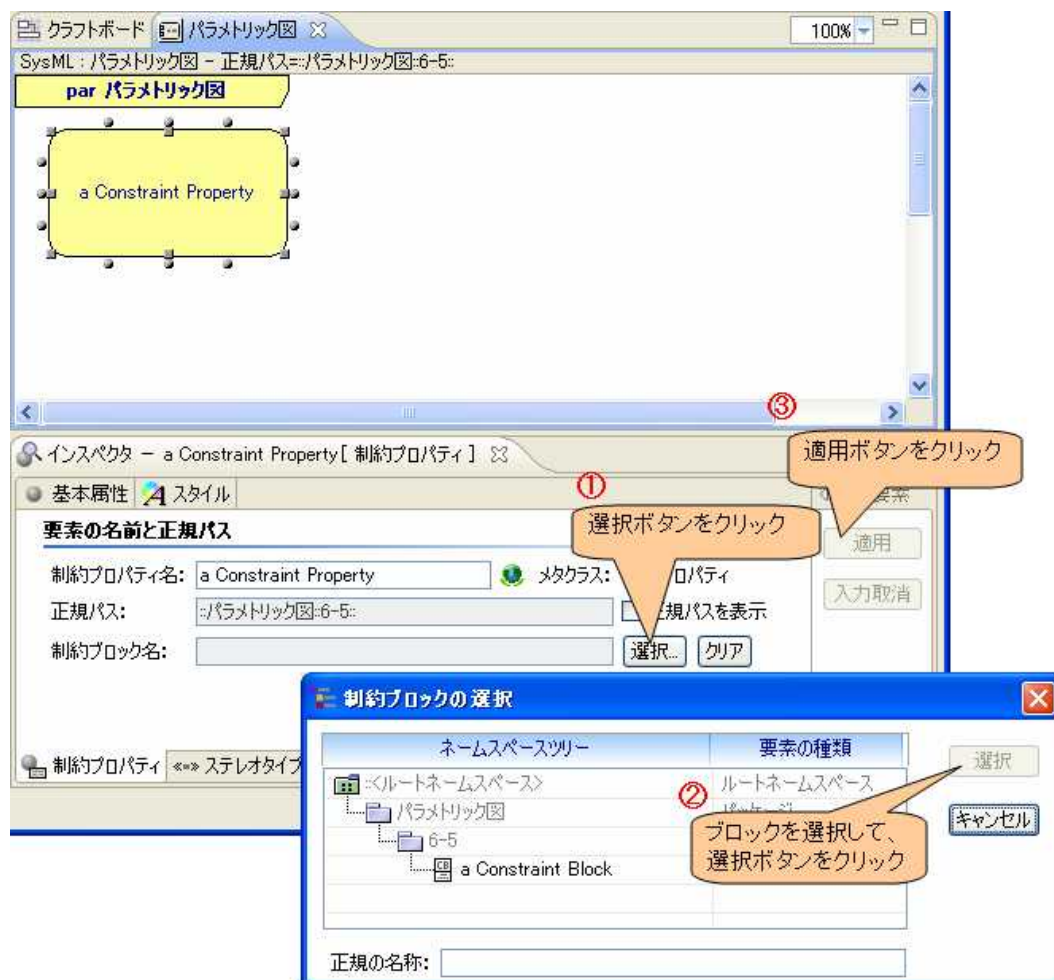


図 6.5

以上の操作を行うと、下記のように制約ブロックが型として設定された状態になります。

制約プロパティに表示される制約の内容は、制約ブロックに定義した制約です。

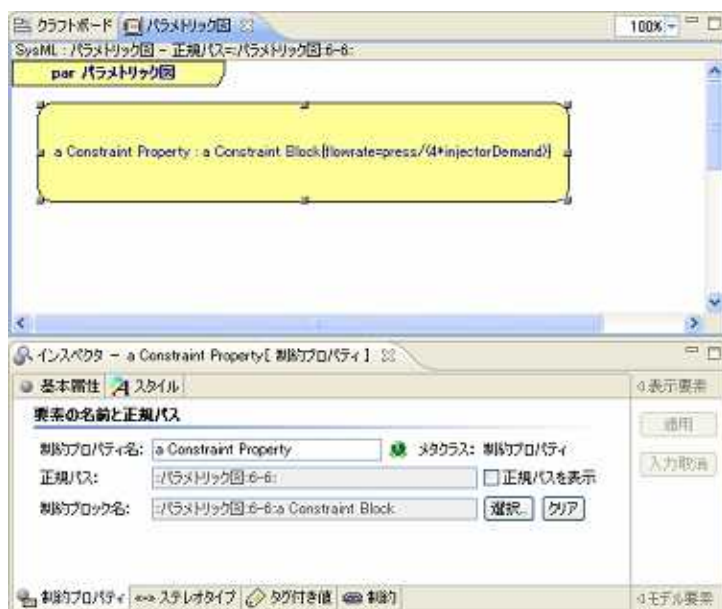


図 6.6

なお、制約プロパティを右クリックしてコンテキストメニューから「名前以外の区画を表示」を選択すると、図 6.5 のような表示形式になります。

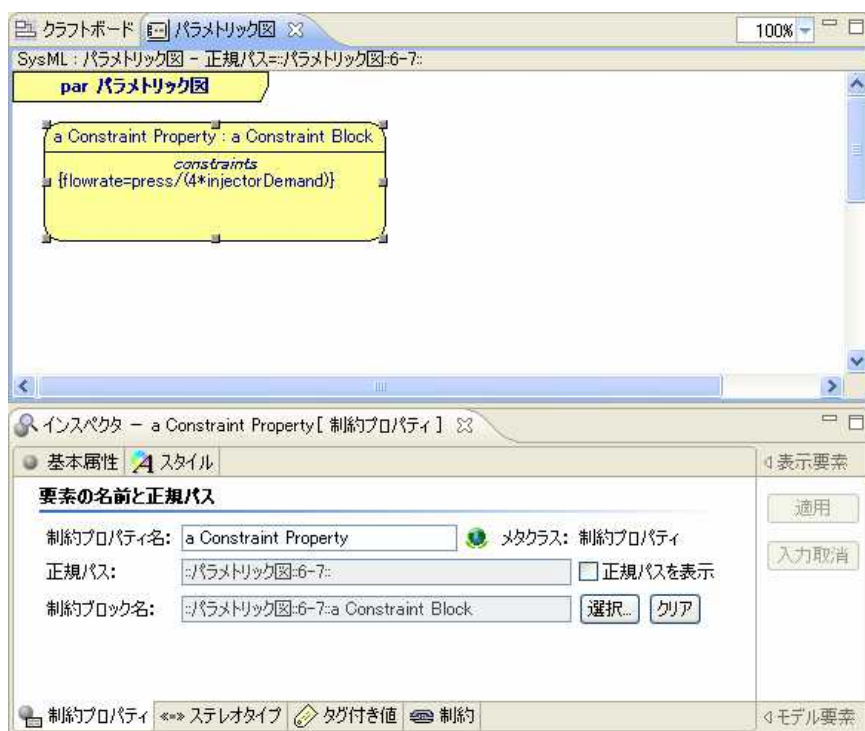


図 6.7

6.5. ポートの追加

制約プロパティに「ポート」を追加するには、ダイアグラムツールバーから設定したいポートに該当するものを選択して、制約プロパティの境界にドラッグ&ドロップします。

この操作のほかにも、制約プロパティを右クリックしてコンテキストメニューの「ポート」からポートを追加することが出来ます。

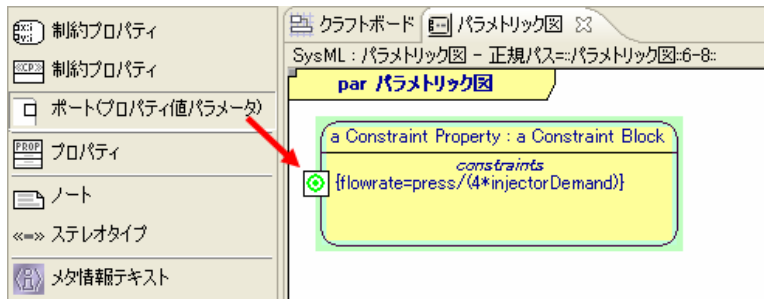


図 6.8

また、ダイアグラムの境界にポートをドラッグ&ドロップして配置することが出来ます。

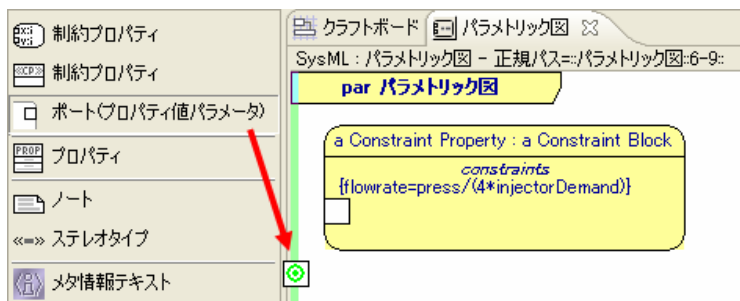


図 6.9

ポートに型を設定する方法は、5章の内部ブロック図を参照してください。

6.6. プロパティの追加

プロパティの追加をするには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューにプロパティをドラッグ&ドロップします。

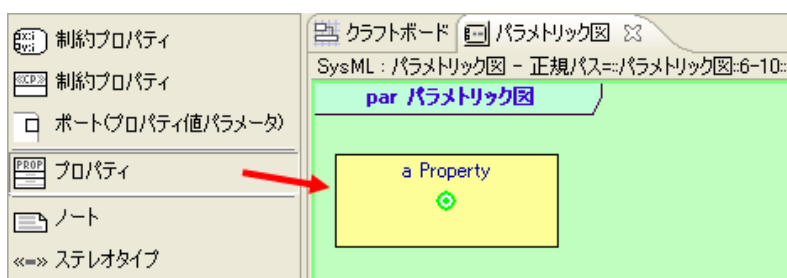


図 6.10

型を指定した状態でプロパティを配置する方法は 5 章の内部ブロック図を参照してください。

6.7. ダイアグラムの例

以上のような操作から、パラメトリック図を作成した例を以下に記載します。

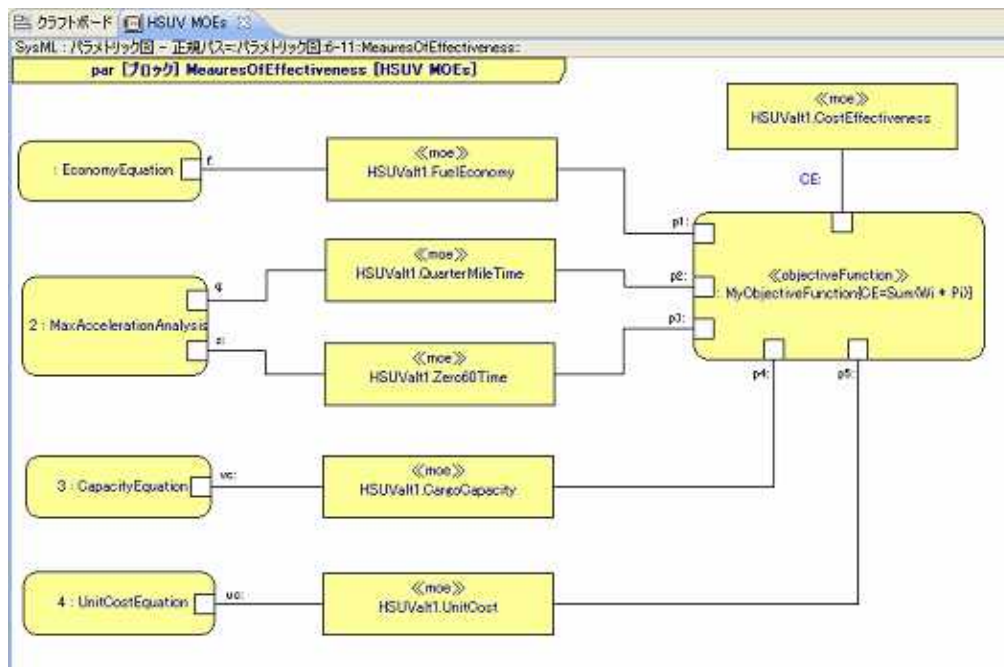


図 6.11

7. 割付け(アロケーション)

7.1. 要素間の割付け

要素間で割付けを設定する手順を、ブロック定義図の要素を用いて解説します。

まず、メニューの「モデル」 「カスタムダイアグラムの新規追加」からブロック定義図を追加し、ダイアグラムツールバーからブロックをドラック&ドロップして追加します。



図 7.1

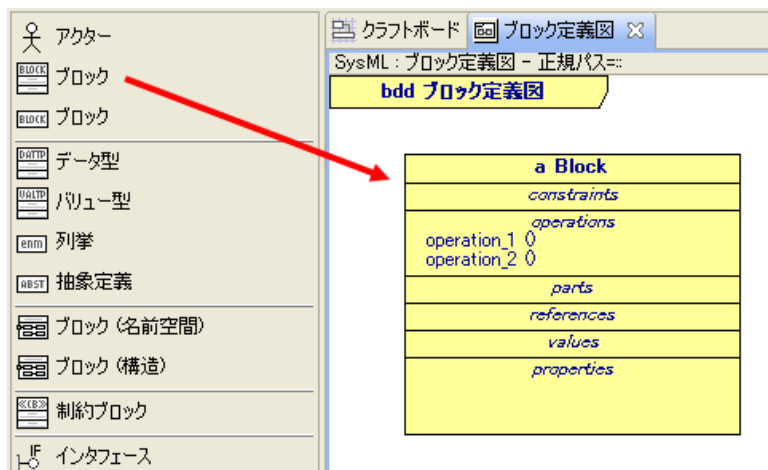


図 7.2

次に、追加したブロックのインスペクタからタブ「割付け」を選択します。「割付け元」または「割付け先」にそれぞれ「+」ボタンをクリックしてダイアログを表示し、割付ける要素を選択します。



図 7.3

ブロックの割付け区画 (allocatedFrom と allocatedTo) を表示するには、ブロックを右クリックして、コンテキストメニューから「割付け区画を表示する」を選択します。例えば、「ブロック 1」の割付け先に「ブロック 2」が設定されている場合、以下のように割付け区画が表示されます。



図 7.4

7.2. アクティビティ区画の割り付け

割り付けの特殊な例として、アクティビティ図の「アクティビティ区画」の割り付けを解説します。

まず、アクティビティ図を追加してダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに「アクティビティ区画」をドラッグ&ドロップして追加します。

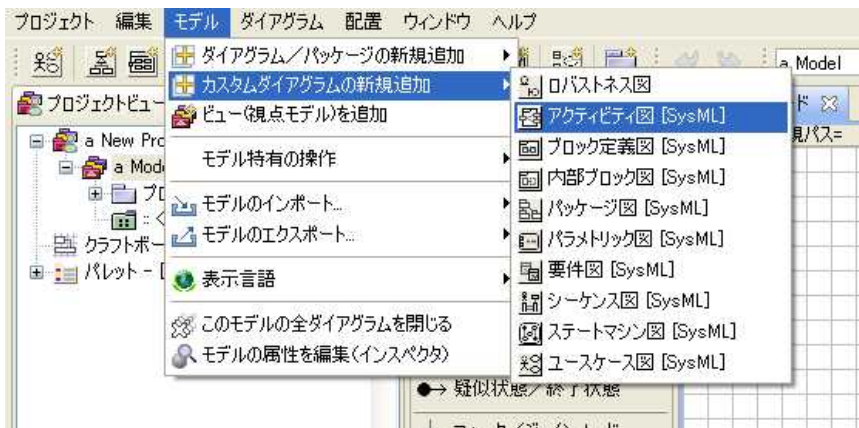


図 7.5



図 7.6

次に、インスペクタの「水平方向の区画」または「垂直方向の区画」タブにある「設定された要素」をクリックします。さらに割付けるブロック(既に名前空間内に追加されているもの)を選択して「選択」ボタンをクリックします。

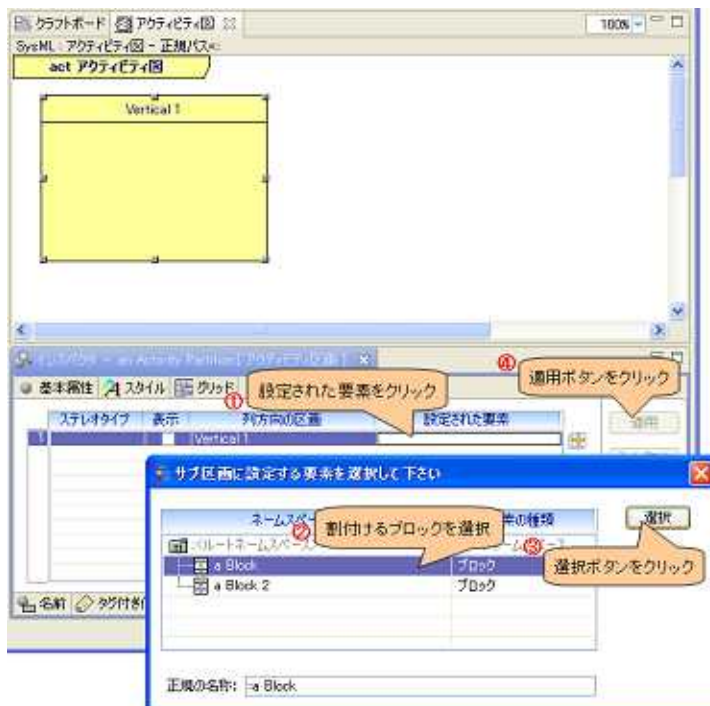


図 7.7

ブロックが割付けられると、アクティビティ区画に、割付けされたことを示す<<allocate>>が表示されます。

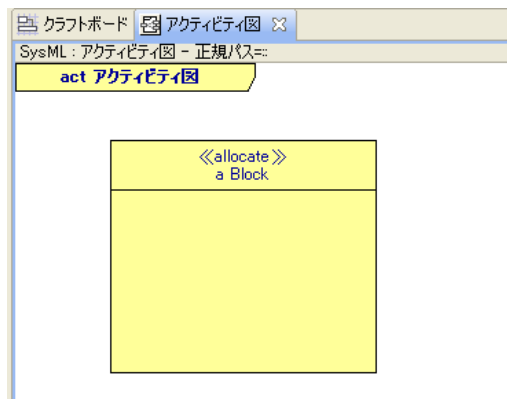


図 7.8

割付けた要素を一覧形式で表現するには、ダイアグラムツールバーからダイアグラムビューに「割付けリスト」をドラッグ&ドロップして追加します。

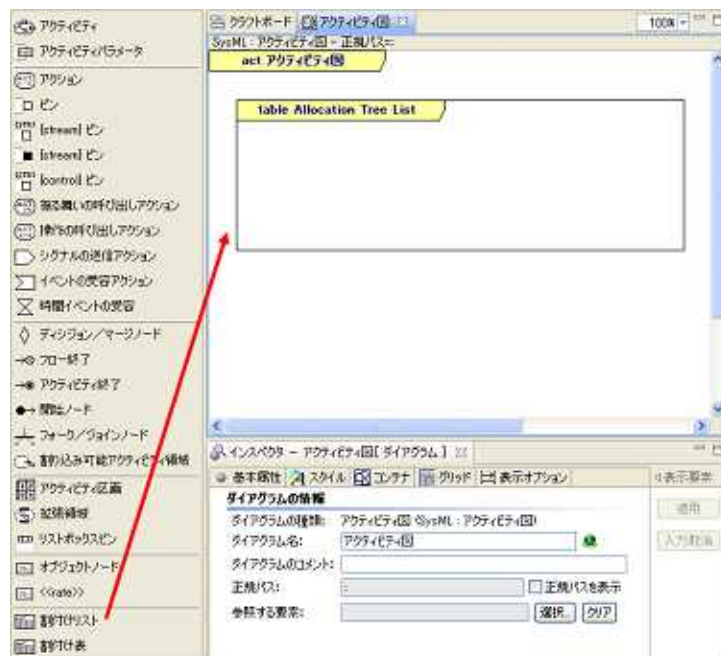


図 7.9

次に、配置した「割付けリスト」のインスペクタ上で「選択…」ボタンをクリックし、対象となるアクティビティ（アクティビティ図をアサインしたもの）を選択して「選択」ボタンをクリックします。

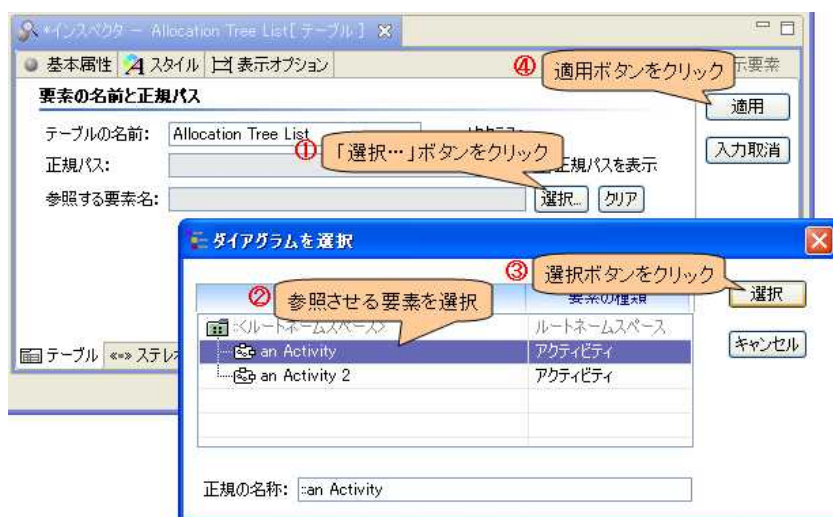


図 7.10

8. パターンウィーバーver2.4 で追加・変更された機能

8.1. Java プリミティブ型のインポートと設定

パターンウィーバーは、ver2.4 から「データ型」がサポートされています。データ型を容易に選択する手段として、Java のプリミティブ型が「モデルライブラリ」という形式であらかじめ用意されています。

このモデルライブラリを読み込むには、まずメニューの「モデル」「モデルのインポート」「モデルライブラリを追加で読み込む」を選択します。

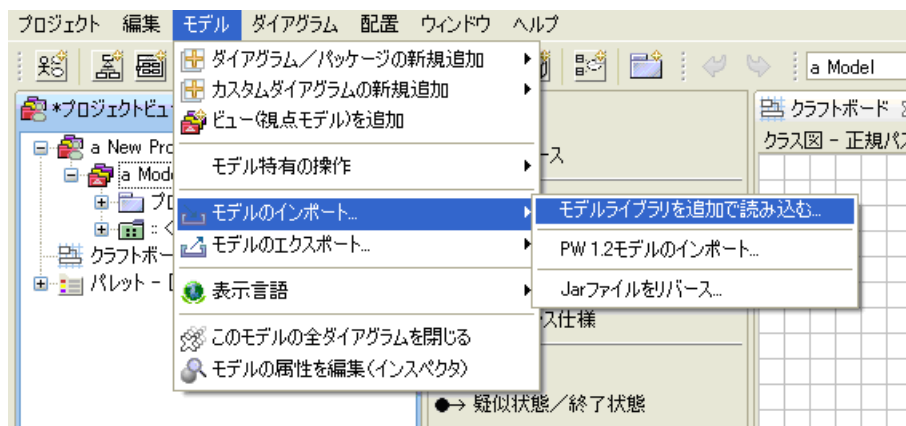


図 8.1

次に表示されたダイアログから、フォルダを

「インストール先¥plugins¥com.foundatao.pw3_3.0.0¥profiles¥lib¥java」に指定し、「Java_PrimitiveTypes_ModelLib.zip」ファイルを選択して「開く」ボタンをクリックします。

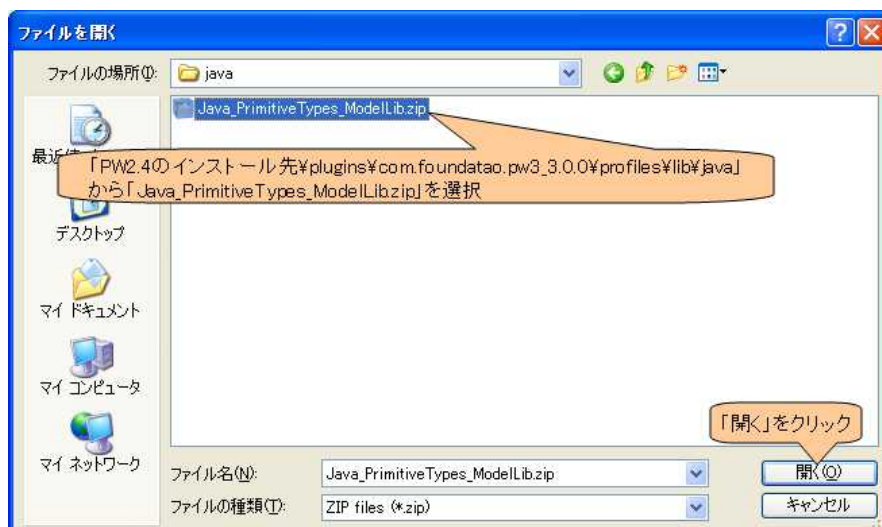
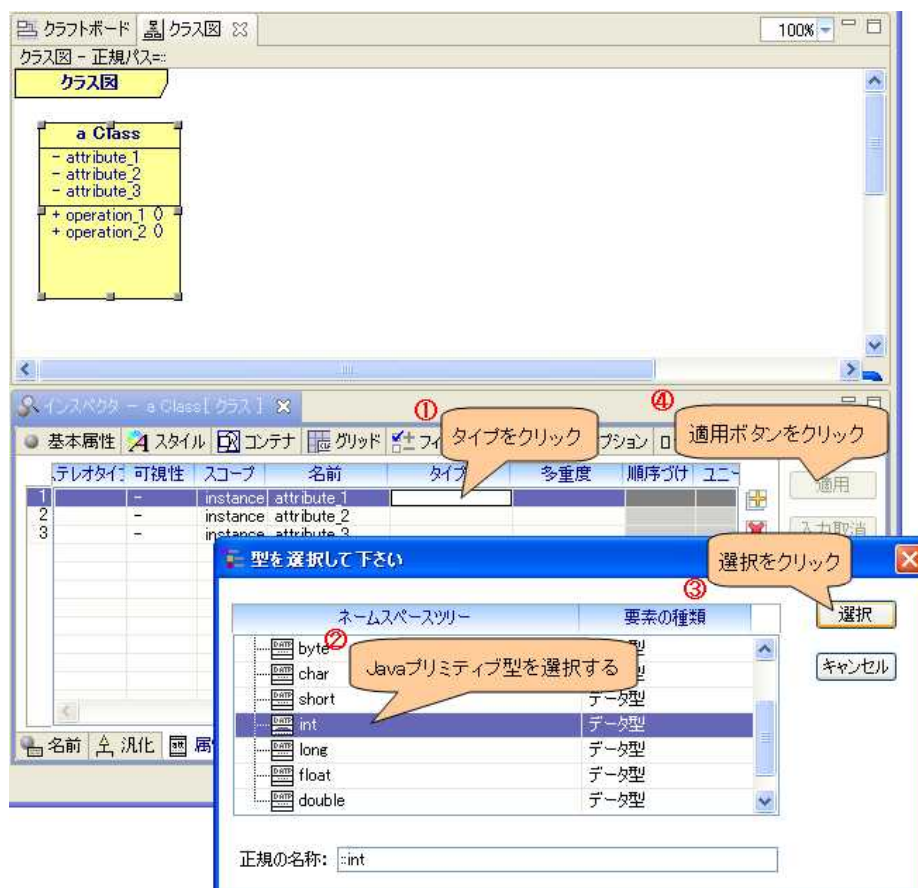


図 8.2

正常にモデルライブラリがインポートされれば、ブロックの属性や操作の型として、Java

のプリミティブ型を指定することが出来ます。



8.2. 相互作用使用の操作法

パターンウィーバー ver2.4 から、シーケンス図の要素「相互作用使用」の操作法が変更されています。従来は、相互作用使用から直接シーケンス図を参照していましたが、ver2.4からは相互作用使用から要素「相互作用」を参照することになります。この相互作用は別途シーケンス図と対応付けることができます。新たな操作法について、以下に解説します

まず、プロジェクトビューのルートネームスペース上で右クリックして、メニュー「要素の新規追加」 「相互作用」から「相互作用」という要素を追加します。

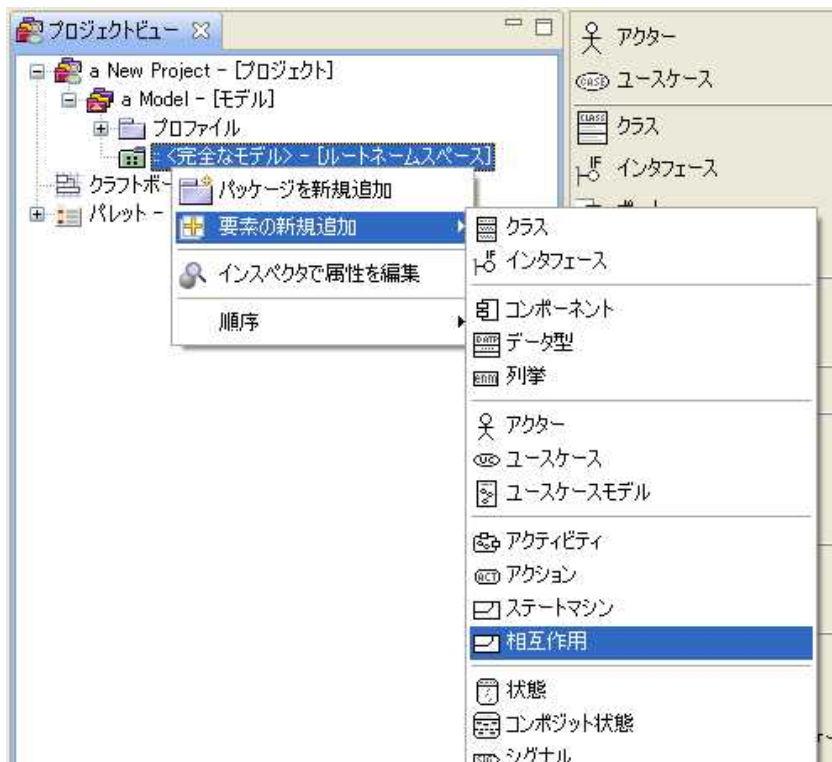


図 8.4

次に、シーケンス図を追加します。メニューの「モデル」「カスタムダイアグラムの新規追加」からシーケンス図を追加したら、このシーケンス図のインスペクタにある「参照する要素」の「選択」ボタンをクリックし、ダイアログ上で先ほどの「相互使用」を選択します。これで要素「相互作用」とシーケンス図が対応付きました。

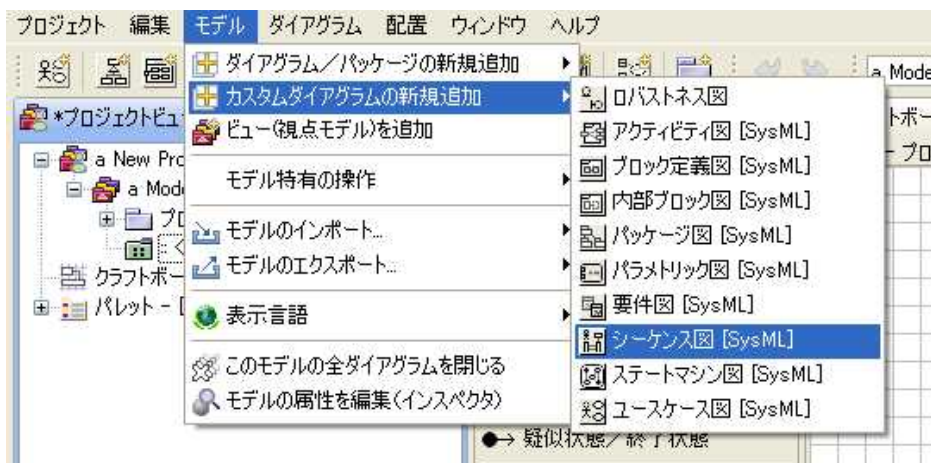


図 8.5

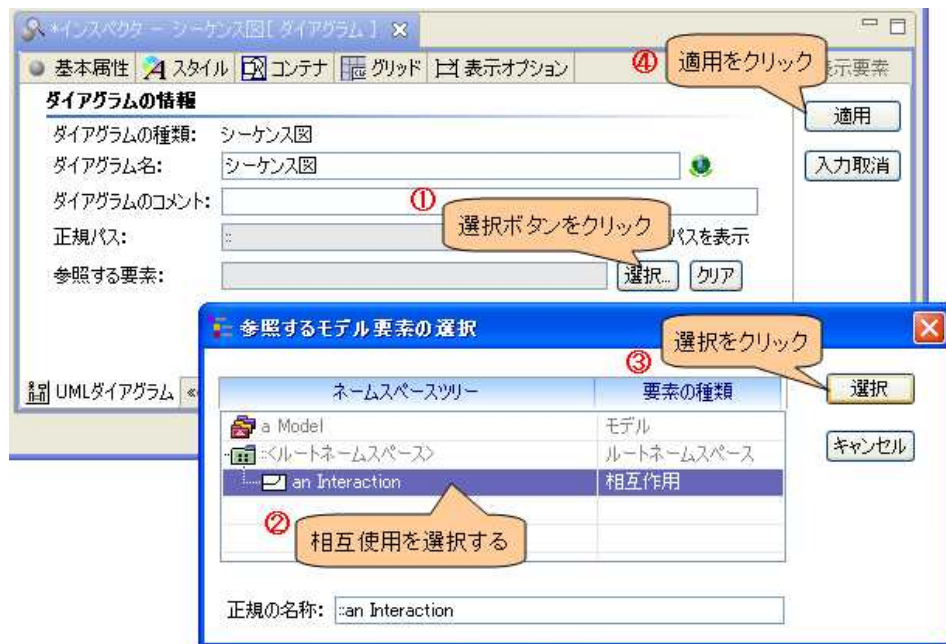


図 8.6

次に、このシーケンス図を参照するシーケンス図を追加します。メニューの「モデル」「カスタムダイアグラムの新規追加」からシーケンス図を追加したら、このダイアグラム上に要素「相互作用使用」を追加します。



図 8.7

次に、この相互作用使用を選択し、そのインスペクタ上で、先ほどの相互作用「an Interaction」を指定します。



図 8.8

この相互作用使用を右クリックして、メニューの「参照する相互作用図を開く[シーケンス図]」を選択すると、参照先（最初に追加したシーケンス図）を開くことができます。

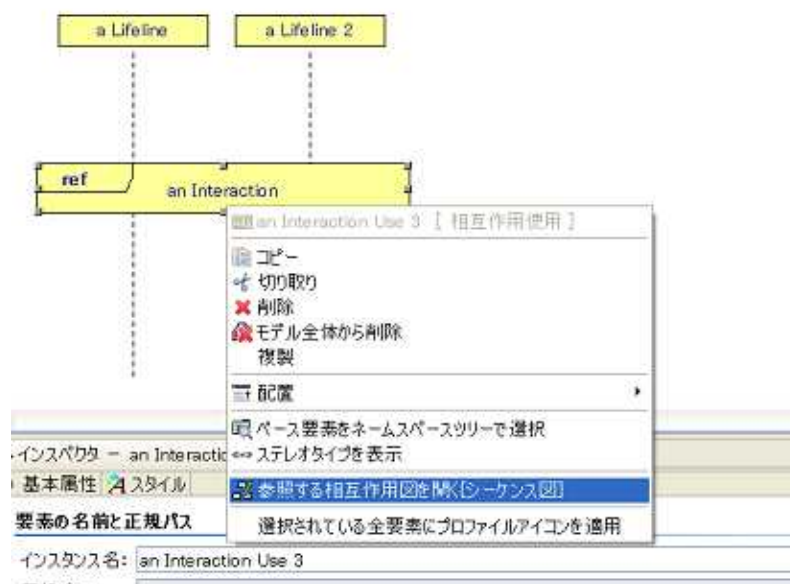


図 8.9

8.3. 振る舞い呼び出しアクションの操作法

パターンウィーバー ver2.4 から、アクティビティ図の要素「振る舞い呼び出しアクション」から振る舞い要素（アクティビティ、ステートマシン、相互作用等）を参照することができるようになりました。ここでは例として、振る舞い呼び出しアクションから要素「相

相互作用」を参照させる手順を解説します。

まず、メニューの「モデル」 「カスタムダイアグラムの新規追加」からアクティビティ図を追加し、ダイアグラムツールバーから振る舞い呼び出しアクションをドラック＆ドロップして追加します。

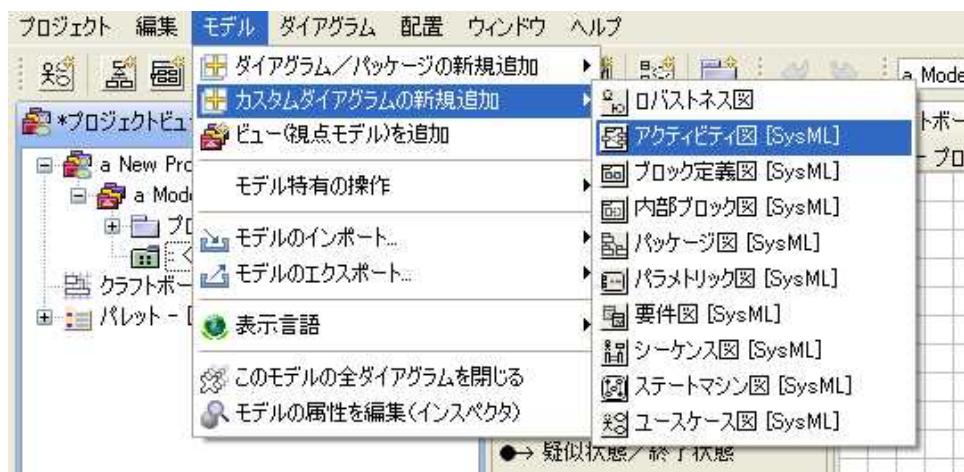


図 8.10

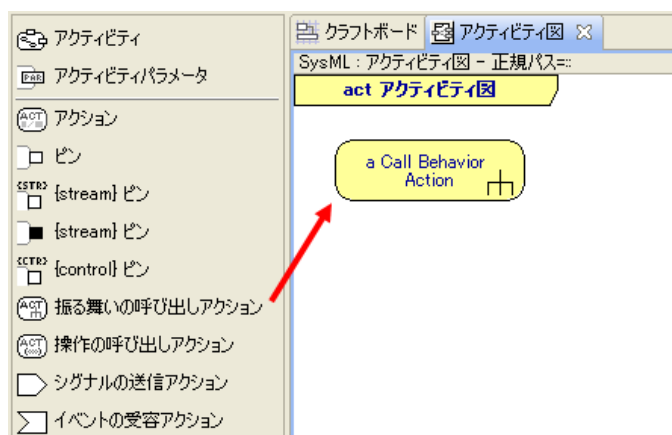


図 8.11

次に、この振る舞い呼び出しアクションをクリックし、インスペクタから「選択」ボタンをクリックしてダイアログを表示させます。このダイアログ上で参照先の振る舞い要素として、あらかじめモデル上に追加してある「相互作用」を選択します。

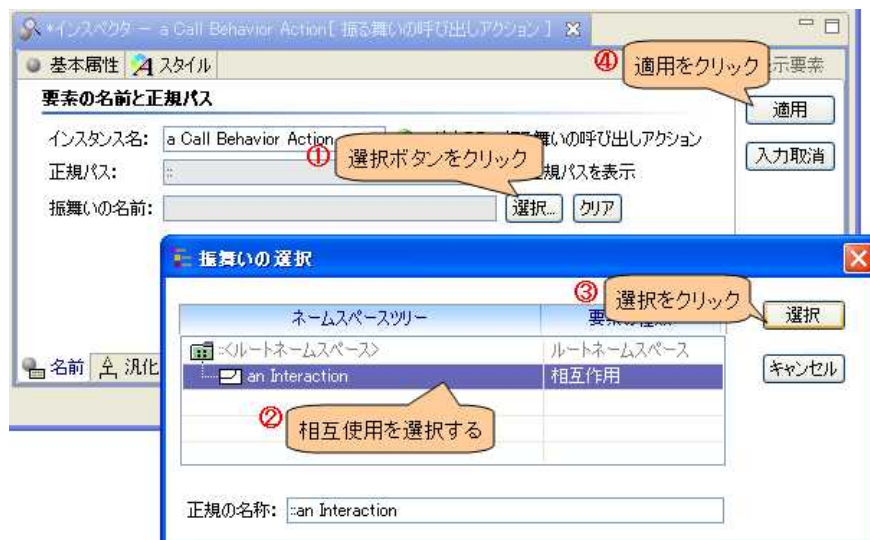


図 8.12

振る舞い呼び出しアクションから参照した要素のダイアグラムを開くには、振る舞い呼び出しアクションを右クリックして、ポップアップメニューから「振る舞いのデフォルトのダイアグラムを開く」をクリックします。



図 8.13